

各教育委員会殿  
各 学 校 校 長 殿

昭和 49 年 10 月 2 日

主催 全国バズ学習研究会  
兵庫龍野市立小宅小学校  
後援 兵庫県教育委員会  
兵庫県龍野市教育委員会  
兵庫県小集団学習研究会

## 第8回全国バズ学習研究会ご案内

天高く大気も澄んで秋も酣の候 諸先生方には一日一日とめまぐるしく変化していく時代に教育の本質を求めて、日々教育実践や研究に取り組んでおられることと存じます。

現代は知識爆発時代、情報化時代などといわれ、生存競争的色彩を帯びた社会的風潮のなかに教育の社会的使命が問われています。「どんな子どもにしたらよいらうか」「将来どんな人間になればよいらうか」という問題は簡単なようでは実は大変むずかしい問題です。

わたくしたちは、どんな子どもも持っている優れた点・社会に貢献できる点を最大限に伸ばして幸せに生きたくましい人間をめざして教育実践につとめています。

幸いに全国バズ学習研究会も本年第8回を迎え、さきの新潟大会に引き続き、下記により全国バズ学習研究会を開催することになりました。

全国同好の先生方との出会いにより、教育方法の開発を追求したいと存じます。多数ご出席をいただきますようご案内申し上げます。

### 記

1. 主 題 ひとり、ひとりを伸ばす教育 —— 学習指導の実践 ——
2. 期 日 昭和49年11月29日(金)・30日(土)
3. 会 場 兵庫県龍野市立小宅小学校

#### 4. 日 程

##### 第1日 (11月29日)

|      |      |      |       |       |              |             |       |       |       |
|------|------|------|-------|-------|--------------|-------------|-------|-------|-------|
| 8:40 | 9:10 | 9:20 | 10:05 | 10:20 | 11:05        | 11:20       | 12:10 | 13:00 | 15:40 |
| 受付   | 朝の会  | 公開授業 | 公開授業  | 公開授業  | 開会行事<br>基本提案 | 昼食<br>アクション | 分科会   |       |       |

##### 第2日 (11月30日)

|      |      |       |       |       |       |       |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 8:40 | 9:10 | 10:30 | 10:40 | 10:50 | 11:50 | 12:00 |
| 受付   | 全体討議 | 講評    | 講演    | 閉会行事  |       |       |

#### 5. 公開授業

##### (第1日 29日)

第1校時 9:20~10:05

| 学年・組 | 教科 | 題材     | 指導者   | 学年・組 | 教科 | 題材          | 指導者   |
|------|----|--------|-------|------|----|-------------|-------|
| 1の1  | 国語 | かくれみ   | 和田千代  | 4の1  | 算数 | 面積(カードの大きさ) | 横田紀子  |
| 1の3  | 理科 | しいそ    | 岸本泰子  | 4の3  | 国語 | 高い石の柱       | 岩村喜代子 |
| 2の1  | 理科 | やじろ    | 志水克子  | 5の2  | 算数 | 面積          | 猪沢久夫  |
| 2の3  | 算数 | 考えましよう | 藤本栄子  | 5の3  | 理科 | 物のあたま       | 山本重信  |
| 3の2  | 理科 | 紙玉でっぼう | 馬場恵津子 | 6の3  | 国語 | との様の茶わん     | 郡安義之  |
| 3の4  | 国語 | 五色のし   | 塩谷紀子  | 特・低  | 算数 | なかまあつめ      | 大村和子  |

第2校時 10:20~11:05

| 学年・組 | 教科 | 題材       | 指導者   | 学年・組 | 教科 | 題材        | 指導者  |
|------|----|----------|-------|------|----|-----------|------|
| 1の2  | 算数 | かいいも     | 森崎愛子  | 4の4  | 国語 | 高い石の柱     | 牛建典子 |
| 1の4  | 理科 | すなぐるま    | 谷郷宣代  | 5の1  | 国語 | 母ぐま子ぐま    | 八瀬典喜 |
| 2の2  | 国語 | きかん車やえもん | 高瀬八重子 | 6の1  | 算数 | 立体の表面積・体積 | 三浦昭子 |
| 3の1  | 算数 | 分        | 寺沢寿美子 | 6の2  | 理科 | ばねばかり     | 平野博  |
| 3の3  | 理科 | ほうさんのとけ方 | 平木君枝  | 特・高  | 国語 | かさじぞう     | 福田節子 |
| 4の2  | 理科 | 食塩水      | 岡本和歌子 |      |    |           |      |

## 6. 開会行事・基本提案 11:20~12:10

- |            |                 |    |    |
|------------|-----------------|----|----|
| (1) 挨拶     | 小宅小学校 長         | 金梶 | 治司 |
| (2) 祝辞     | 全国バズ学習研究会代表 長   | 梶鈴 | 士二 |
| (3) 歓迎の辞   | 龍野市教育委員会 長      | 鈴堀 | 進  |
| (4) 研究経過報告 | 小宅小学校 P T A 会 長 | 堀塩 | 信  |
| (5) 基本提案   | 小宅小学校 教 頭       | 塩山 |    |
| (6) 質疑     | 小宅小学校 教 諭       |    |    |

## 7. 昼食 12:10~13:00

12時45分よりコーラス部の合唱（児童・親）を発表する予定

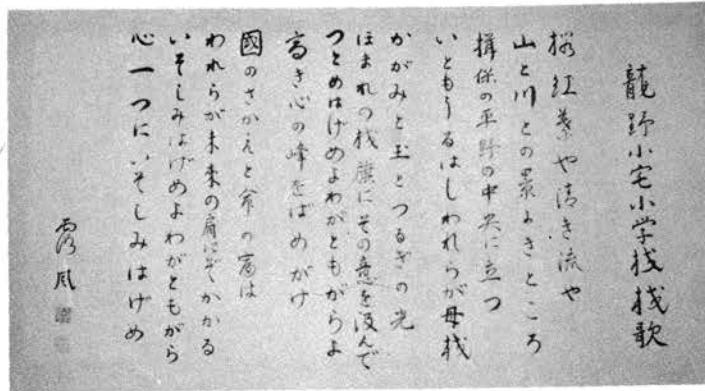






# 学 校 要 覧

昭 和 49 年 度



お やけ  
竜野市立 小宅小学校



# 1 本校の沿革

- 明治 5 年 8 月 学制発布により、次の学校を創立。  
洲田小学校、漸進小学校、片山小学校、中井小学校  
宮畔小学校
- 明治 9 年 6 月 上の学校を廃し、揖東郡日銅村に又新小学校を新築。
- 明治 25 年 4 月 町村制施行により、小宅村一円を学区とする。  
島田、日銅、堂本、富永、四箇、大道、北村、  
宮脇、中村、末政、片山、中井  
村立小宅尋常小学校と名称。
- 明治 44 年 4 月 小宅尋常小学校に高等科を併設。
- 昭和 3 年 4 月 講堂建築、三棟の校舎の各西端に 1 教室を増築。
- 昭和 22 年 4 月 学校教育法施行により小宅村立小学校と改称。
- 昭和 23 年 4 月 小宅村は竜野町と合併、竜野町立小宅小学校と改称。
- 昭和 29 年 4 月 昭和 26 年 12 月校舎改築促進同盟会を結成後、年々改築、二棟二階建の校舎竣工する。
- 昭和 30 年 4 月 講堂移築完成、校歌改訂。
- 昭和 35 年 12 月 本館、用務員室、来賓便所竣工。
- 昭和 43 年 7 月 プール完成、7 月 19 日プール開き。
- 昭和 49 年 4 月 普通教室 4 教室、増築工事に着工。

# 2 栄光の歴史

- 健康優良学校 S 42・S 48 全日本健康優良学校
- 学校給食優良学校 S 46・S 47 文部大臣表彰
- 安全教育優良学校 S 43 文部大臣表彰
- 理科教育優秀校 S 48 ソニー理科振興資金で優秀校
- 音楽教育優秀校 MBS・NHK 音楽コンクールで優秀校 (S 46.48)

# 3 地域の特徴

本校が所在する川東地区は恵まれた立地条件にあり、現在市街地域と農業地域が混在しているが、すべての面に一大飛躍の転換期を迎えている。工場・官公庁・金融機関・事業場・商店等の進出がめざましく、今後交通、産業、経済の面で面期的な進展が約束されている。

また、着実真摯な住民感情から教育にも極めて熱心である。

主な産業

- 醤油 油……色をつけずによい味をつける淡口醤油
- 播州手延そうめん……女性の美しい肌と清純さを象徴する播州そうめん “揖保の糸”。
- 播州皮革……なめしの美しい皮革、全国の 35% 生産、製品の主なものは婦人靴用

## 保護者の職業

| 職業  | 農業    | 林業   | 漁業  | 鉱業   | 建築業   |
|-----|-------|------|-----|------|-------|
| 児童数 | 156   | 0    | 2   | 0    | 19    |
| 職業  | 製造業   | 卸小売業 | 金融等 | 運輸通信 | 電気・ガス |
| 児童数 | 316   | 105  | 10  | 26   | 15    |
| 職業  | サービス業 | 公務員  | その他 |      | 合計    |
| 児童数 | 17    | 142  | 21  |      | 829   |

## 4 学校経営の概要

### (1) 教育精神（本校教育の象徴）

鏡と玉と剣（正しく・仲よく・強く）

### (2) 教育目標……頭と心とからだ

人間尊重の本義を理解し、創造力に富む高い知性と教育を身につけ、たくましいからだと誠実で豊かな心を持ち、意志の強い実践的な行動人の育成をめざす。

### (3) 経営方針

- ㉞ 真の教育は、教師と児童相互における敬愛と信頼、心を大切に、師弟同行の姿において、魂のふれあう教育。
- ㉟ 構造化された教材の道すじを、自発的・主体的に思考を積み重ねていく授業をくふうし、探究的な眼を育てていく。
- ㊱ 人権意識にめざめた和の精神を強調、人間関係における意識の変革をめざし、差別解消の実践力をつける。
- ㊲ 素朴にして強靱な体力を養うため、健康教育を更におし進め、ねばりや根性の精神を培っていく。
- ㊳ 集団の中で個の存在意義を自覚して、ひとりひとりが能力適性を十分発揮できるよう、きめ細かい配慮で楽しい学級、学校づくりに努力する。

### (4) 生活五則

- ㉞ 健康は、まずしせいから。
- ㉟ あいさつ、へんじははっきりと。
- ㊱ よく見、よく聞き、進んで発表。
- ㊲ 勉強、仕事は、最後まで。
- ㊳ 友だち、仲よく、助け合い。

## 5 本年度努力目標

ひとりひとりを伸ばす教育  
—— 学習指導の実践 ——

ひとりひとりの可能性を最大限に伸ばす学習指導法のくふう、改善をはかる。

### (1) 学習指導法の現代化（組織化）

- ㉞ ひとりひとりの子どもの学習権を保障した授業の創造
- ㉟ みずから主体的に学びとる授業
- ㊱ 個々に生かされた授業
- ㊲ 小集団による学習方法のくふう（バズ学習方式）
- ㊳ 教育機器の活用

### (2) 同和教育の深化拡充

- ㉞ 教師集団の確立（自己点検と共同学習）
- ㉟ 同和カリキュラムの検討
- ㊱ 教科指導の中における同和教育

### (3) 健康教育の充実

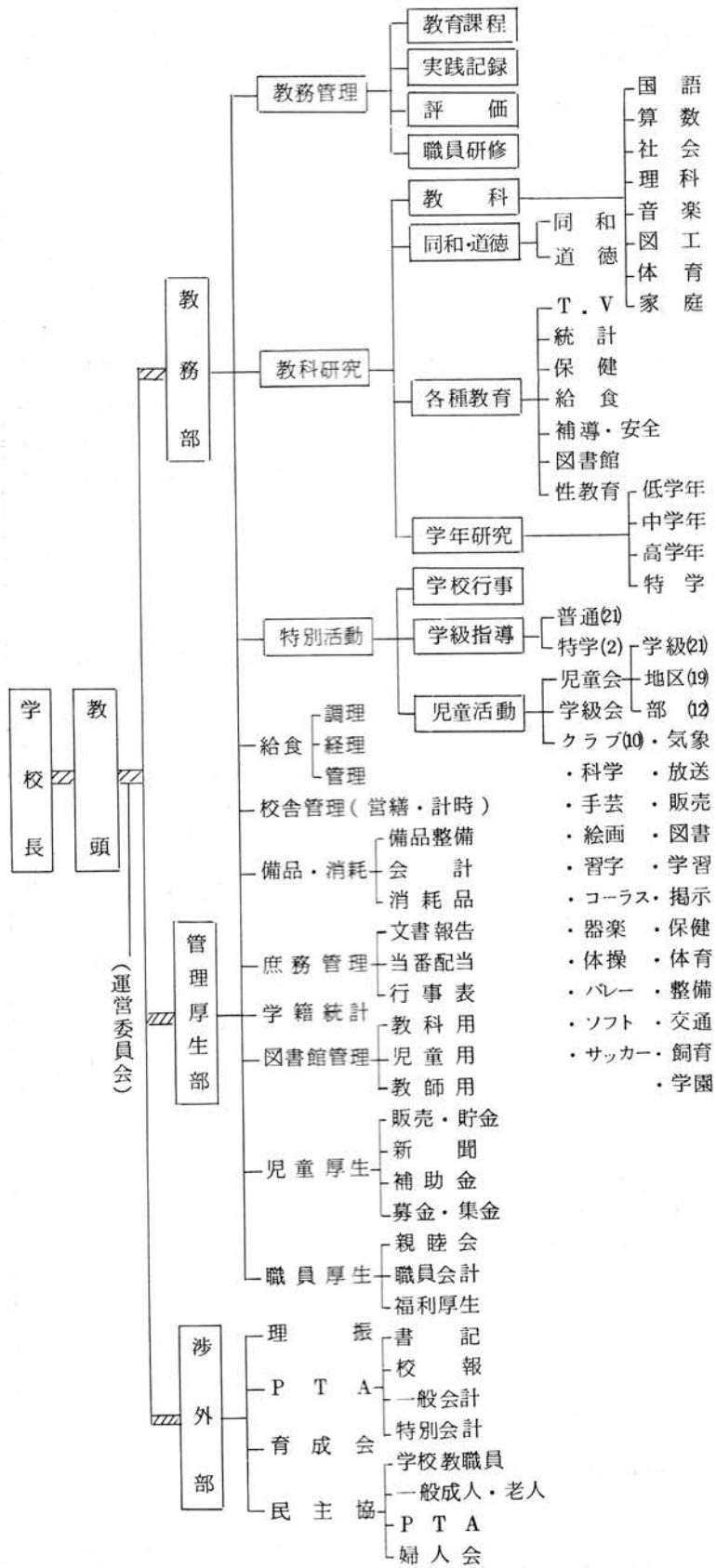
- ㉞ 体育技能の修練と保健活動の活発化
- ㉟ 自律的な生活態度の育成
- ㊱ 花とうた声のある学校

# 6 職 員 一 覧 表

(4月1日現在)

| 番号 | 職名 | 氏 名   | 年令 | 本校<br>在職 | 担 任 | 校務    | 教科  | 住 所   |
|----|----|-------|----|----------|-----|-------|-----|-------|
| 1  | 校長 | 金治 晴治 | 54 | 1        |     | 学経    |     | 竜野・揖西 |
| 2  | 教頭 | 塩津 進  | 49 | 3        |     | 総務    |     | 竜野・誉田 |
| 3  | 教諭 | 山本 重信 | 46 | 3        | 5の3 | 教務    | 理   | 竜野・揖西 |
| 4  | 〃  | 猪沢 久夫 | 57 | 6        | 5の2 | 児童会   | 特活  | 御津・室津 |
| 5  | 〃  | 福田 節子 | 47 | 6        | 特 高 | 教務    | 特殊  | 竜野・揖保 |
| 6  | 〃  | 高瀬八重子 | 48 | 2        | 2の2 | 庶務    | 道   | 揖保川   |
| 7  | 〃  | 岩村喜代子 | 46 | 5        | 4の3 | 教務    | 国   | 太子・嶋  |
| 8  | 養教 | 小嶋 澄子 | 46 | 3        |     | 保給    | 保給  | 姫路・網干 |
| 9  | 教諭 | 八瀬 典喜 | 45 | 3        | 5の1 | 校報    | 家   | 竜野・揖西 |
| 10 | 〃  | 三浦 昭子 | 44 | 7        | 6の1 | 販売    | 同和  | 竜野・誉田 |
| 11 | 〃  | 大村 和子 | 44 | 7        | 特 低 | 家教    | 算   | 竜野・揖西 |
| 12 | 〃  | 和田 千代 | 44 | 1        | 1の1 | P.T.A | 図   | 竜野・竜野 |
| 13 | 〃  | 平野 博  | 42 | 6        | 6の2 | 備品    | 理   | 新宮・栗町 |
| 14 | 〃  | 郡安 義之 | 41 | 4        | 6の3 | 営繕    | 体   | 太子・太田 |
| 15 | 〃  | 玉田 泰之 | 36 | 9        | 専   | 〃     | 社   | 太子・東出 |
| 16 | 〃  | 馬場恵津子 | 38 | 0        | 3の2 | 貯金    | T V | 揖保川   |
| 17 | 〃  | 岸本 泰子 | 32 | 5        | 1の3 | P.T.A | 音   | 竜野・揖保 |
| 18 | 〃  | 森崎 愛子 | 31 | 7        | 1の2 | 図書    | 図書  | 竜野・揖西 |
| 19 | 〃  | 谷郷 宣代 | 29 | 2        | 1の4 | 学籍    | 統計  | 新宮・上笹 |
| 20 | 〃  | 牛建 典子 | 25 | 4        | 4の4 | 代行    | 保健  | 太子・太田 |
| 21 | 〃  | 藤原 恵子 | 23 | 1        | 専   | 通信    | 音   | 竜野・竜野 |
| 22 | 〃  | 横田 紀子 | 23 | 1        | 4の1 | 備品    | 道   | 太子・糸井 |
| 23 | 〃  | 平木 君枝 | 23 | 3        | 3の3 | 庶務    | 理   | 竜野・竜野 |
| 24 | 〃  | 塩谷 紀子 | 23 | 3        | 3の4 | 会計    | 国   | 御津・黒崎 |
| 25 | 〃  | 藤本 栄子 | 23 | 0        | 2の3 | 消耗    | 同和  | 新宮・千本 |
| 26 | 〃  | 寺沢寿美子 | 23 | 0        | 3の1 | 集金    | 算   | 姫路・豎町 |
| 27 | 〃  | 岡本和歌子 | 22 | 2        | 4の2 | 消耗    | 理   | 竜野・揖西 |
| 28 | 〃  | 志水 克子 | 22 | 1        | 2の1 | 児会    | 理   | 山崎町   |
| 29 | 主査 | 嶋津 教真 | 48 | 4        | 事 管 | 事務    |     | 竜野・竜野 |
| 30 | 用務 | 青木美千子 | 41 | 2        | 管 理 |       |     | 竜野・揖西 |
| 31 | 調理 | 今井 文子 | 50 | 5        | 給 食 |       |     | 竜野・神岡 |
| 32 | 〃  | 八瀬 美代 | 48 | 4        | 〃   |       |     | 竜野・揖西 |
| 33 | 〃  | 小谷カラル | 42 | 2        | 〃   |       |     | 竜野・竜野 |
| 34 | 〃  | 埴安みさ子 | 45 | 2        | 〃   |       |     | 〃     |
| 35 | 校区 | 井上 通夫 | 50 | 20       | 内 科 |       |     | 〃     |
| 36 | 〃  | 田中 敬三 | 69 | 39       | 内 科 |       |     | 〃     |
| 37 | 〃  | 山脇 章  | 67 | 20       | 耳 鼻 |       |     | 〃     |
| 38 | 〃  | 西田 美秋 | 59 | 8        | 歯 科 |       |     | 竜野・誉田 |
| 39 | 〃  | 栗山 玉枝 | 49 | 2        | 眼 科 |       |     | 竜野・竜野 |
| 40 | 薬剤 | 長野 斉  | 43 | 13       | 保 健 |       |     | 〃     |

# 7 学校運営機構校務分掌



# 8 学 級 編 成

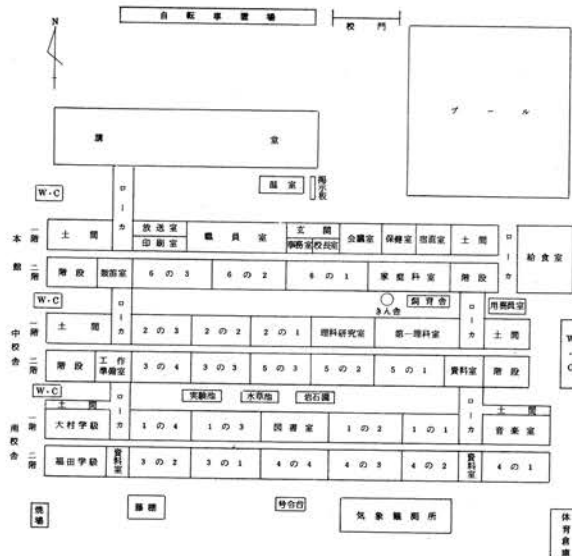
(5月1日現在)

| 学年 | 組 | 男  | 女  | 計  | 学年 | 組   | 男   | 女   | 計    |
|----|---|----|----|----|----|-----|-----|-----|------|
| 1  | 1 | 20 | 21 | 41 | 4  | 1   | 20  | 15  | 35   |
|    | 2 | 20 | 21 | 41 |    | 2   | 19  | 16  | 35   |
|    | 3 | 20 | 21 | 41 |    | 3   | 20  | 15  | 35   |
|    | 4 | 20 | 22 | 42 |    | 4   | 19  | 16  | 35   |
| 2  | 1 | 21 | 20 | 41 | 5  | 1   | 21  | 20  | 41   |
|    | 2 | 21 | 21 | 42 |    | 2   | 20  | 21  | 41   |
|    | 3 | 21 | 21 | 42 |    | 3   | 21  | 20  | 41   |
| 3  | 1 | 16 | 19 | 35 | 6  | 1   | 24  | 21  | 45   |
|    | 2 | 16 | 20 | 36 |    | 2   | 24  | 20  | 44   |
|    | 3 | 16 | 20 | 36 |    | 3   | 25  | 19  | 44   |
|    | 4 | 16 | 20 | 36 |    | 特   | 低   | (1) | (6)  |
|    |   |    |    |    | 高  | (4) | (3) | (7) | (14) |
| 合計 |   |    |    |    |    | 合計  | 420 | 419 | 829  |

# 9 校 時 表

| 月曜日～金曜日 |             | 土曜日        |             |
|---------|-------------|------------|-------------|
| 予 鈴     | 8:25        | 予 鈴        | 8:25        |
| 職 朝     | 8:30～8:40   | 職 朝        | 8:30～8:40   |
| 児 朝     | 8:40～8:45   | 1 校 時      | 8:40～9:20   |
| 1 校 時   | 8:45～9:30   | 2 校 時      | 9:30～10:10  |
| 2 校 時   | 9:40～10:25  | 3 校 時      | 10:20～11:00 |
| 業 間     | 10:25～10:45 | 4 校 時      | 11:10～11:50 |
| 3 校 時   | 10:45～11:30 | 終 会        | 11:50～12:00 |
| 4 校 時   | 11:35～12:15 | 整 理        | 12:00～12:10 |
| 給 食     | 12:15～13:00 | 全 校 終 会    | 12:15       |
| 清 掃     | 13:20～13:40 | 月曜日・金曜日の午后 |             |
| 5 校 時   | 13:45～14:25 | 清 掃        | 13:20～13:40 |
| 6 校 時   | 14:35～15:15 | 5 校 時      | 13:40～14:25 |
| 終 会     | 15:15～15:30 | 終 会        | 14:25～14:45 |
| 下 校     | 16:30       | 6 校 時      | 14:50～15:30 |

# 10 校 舎 配 置 図





## 授業の視点

次の視点から授業をご覧になって ご批判下さい。

別紙感想用紙にご記入の上、投函下さい。

1. ひとりひとりの子供がどのように自主的に思考し、創造しているか。

- どこをどのように まず自分で考えたか。
- 自分の考えが出せたか。
- 聞く態度は良かったか。

2. バズの参加度はどうか。

- 班内全員が参加しているか。
- バズ長はどんな役目をしているか。
- 相互の教え合い(援助)が行われているか。
- 相手が聞いているか。反応はどうかあったか。
- 疎外されている子はいないか。

3. 理解が促進、拡大されているか。(認知)

- 何を学習するかを意識がはっきりしているか。
- 多面的なもの、見方、考え方、感じ方をしているか。
- 話す内容がみんなに理解され、深まっているか。
- 課題を解決するための思考がなされているか。
- 目標からはなれた話し合いになっていないか。
- ドリルや練習が能率的か。

4. 学習態度はどうか。(態度)

- 協力的で、相互に信頼し合う人間関係ができていないか。
- 自己表現が活発になされているか。
- 聞く態度、話す態度はできていないか。



# 順位相関係数

グループの進歩の度合と { 知能差  
課題に対する満足度  
仲間に対する満足度

① 順位

|       | 6年 |    |    |    |    |    | 5年 |    |    |    |    |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|       | 1班 | 2班 | 3班 | 4班 | 5班 | 6班 | 1班 | 2班 | 3班 | 4班 | 5班 |
| 進歩の度合 | 1  | 3  | 6  | 1  | 3  | 5  | 3  | 1  | 5  | 6  | 4  |
| 知能差   | 4  | 2  | 1  | 6  | 5  | 3  | 5  | 1  | 3  | 5  | 4  |
| 課題に対し | 5  | 3  | 2  | 4  | 5  | 1  | 2  | 1  | 2  | 2  | 6  |
| 仲間に対し | 2  | 5  | 6  | 2  | 1  | 4  | 5  | 1  | 3  | 4  | 6  |

6 2 5 4 3

② 順位相関係数の求め方 (スピアマンの)

公式

$$r_s = 1 - \frac{6S}{N^3 - N} = 1 - \frac{6\sum d_i^2}{N^3 - N}$$

具体的には

|                |   |   |    |    |   |   |
|----------------|---|---|----|----|---|---|
| 進              | 1 | 3 | 6  | 1  | 3 | 5 |
| 知              | 4 | 2 | 1  | 6  | 5 | 3 |
| 差              | 3 | 1 | 5  | 5  | 2 | 2 |
| 差 <sup>2</sup> | 9 | 1 | 25 | 25 | 4 | 4 |

右の合計 68 =  $\sum d_i^2$

$$r_s = 1 - \frac{6 \times 68}{6^3 - 6} = 1 - \frac{408}{210} = -0.943$$

Nは上下の対の数にして1班の数となる。

正確には、同位がある場合は少し修正する。

| 6<br>" | 4年     |        |        |        |        | 2年     |        |        |        |        |        |        |        |         |  |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--|
|        | 1<br>班 | 2<br>" | 3<br>" | 4<br>" | 6<br>" | 1<br>班 | 2<br>" | 3<br>" | 4<br>" | 5<br>" | 6<br>" | 7<br>" | 9<br>" | 10<br>" |  |
| 1      | 2      | 4      | 1      | 5      | 3      | 9      | 2      | 6      | 1      | 5      | 6      | 6      | 4      | 3       |  |
| 2      | 3      | 5      | 4      | 2      | 1      | 1      | 7      | 8      | 9      | 6      | 4      | 1      | 3      | 5       |  |
| 5      | 4      | 3      | 1      | 5      | 2      | 8      | 6      | 5      | 1      | 4      | 7      | 9      | 3      | 2       |  |
| 2      | 2      | 4      | 3      | 1      | 5      | 4      | 7      | 9      | 3      | 2      | 1      | 6      | 8      | 5       |  |

③ 学年別、進歩の度合との知能、課題、仲間との相関係数

|    | 知能     | 課題     | 仲間     |
|----|--------|--------|--------|
| 2年 | -0.600 | 0.742  | 0.025  |
| 4年 | -0.200 | 0.700  | -0.200 |
| 5年 | 0.714  | -0.314 | 0.486  |
| 6年 | -0.943 | -0.743 | 0.686  |
| 計  | -1.029 | 0.385  | 0.997  |
| M. | -0.257 | 0.096  | 0.249  |

第8回全国バス学習研究集会

# 大会要項

昭和49年11月29日(金) 30日(土)

ひとりひとりを伸ばす教育  
— 学習指導の実践 —

主催 全国バス学習研究会

兵庫県龍野市立小宅小学校

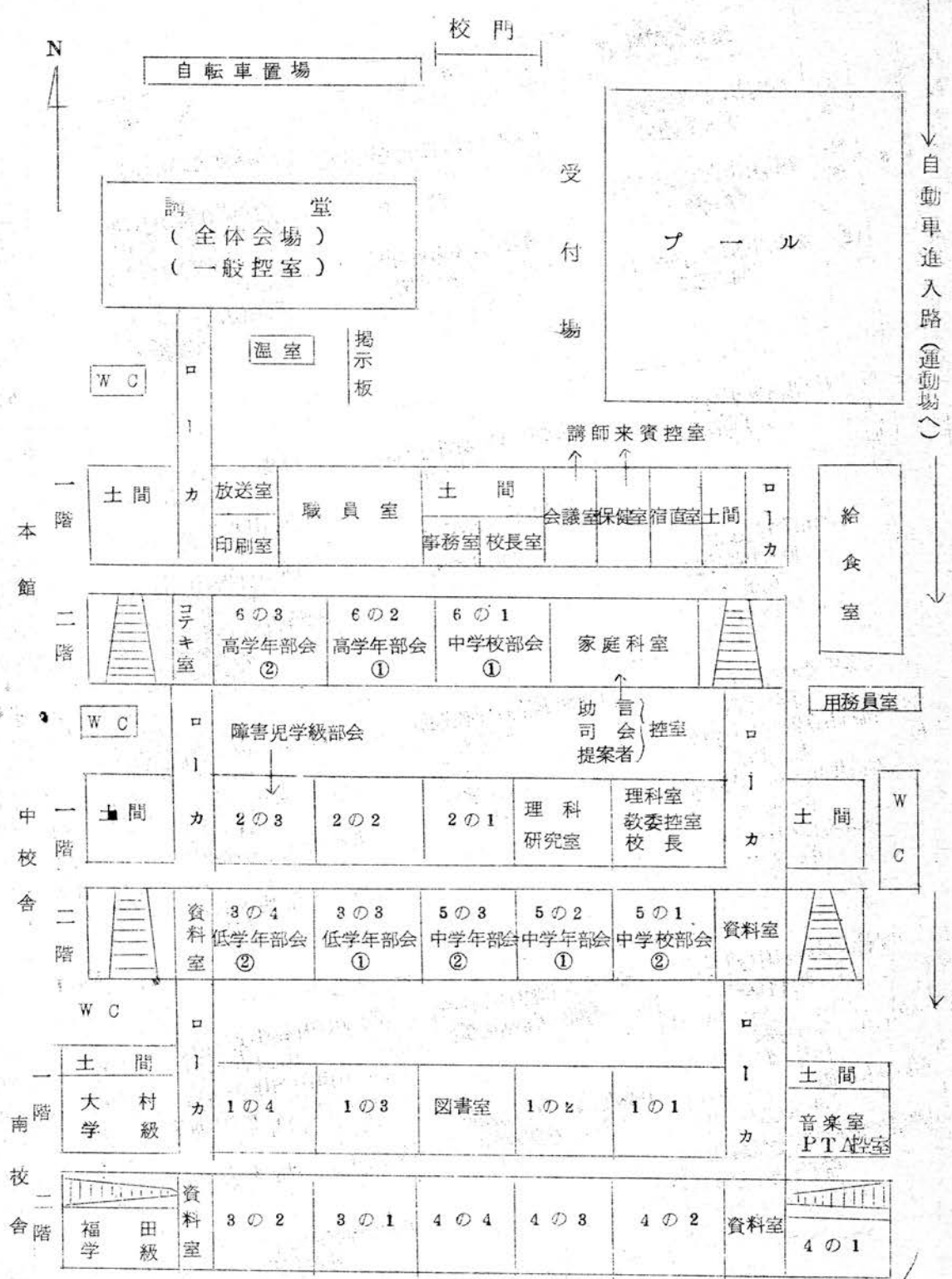
後援 兵庫県教育委員会

兵庫県龍野市教育委員会

兵庫県小集団学習研究会

1. 会 場 図 .....
2. 大会日程、公開授業一覧表 .....
3. 大会日程メモ欄 .....
4. 学 習 指 導 案 .....
5. 汽車バス時刻表

# 会場図





# 1. 日 程

|      |      |      |       |       |       |              |               |       |       |
|------|------|------|-------|-------|-------|--------------|---------------|-------|-------|
| 8:40 | 9:10 | 9:20 | 10:05 | 10:20 | 11:05 | 11:20        | 12:10         | 13:00 | 15:40 |
| 受付   | 朝の会  | 公開授業 |       | 公開授業  |       | 開会行事<br>基本提案 | 昼食<br>アトラクション | 分科会   |       |

|      |      |       |       |       |          |       |
|------|------|-------|-------|-------|----------|-------|
| 8:40 | 9:10 | 10:30 | 10:40 | 10:50 | 11:50    | 12:00 |
| 受付   | 全体討議 | 講評    |       | 講 演   | 閉会<br>行事 |       |

## 2. 公 開 授 業

第1校時 9:20~10:05

| 学年組 | 場 所  | 教 科 | 題 材 名       | 指 導 者     | 頁  |
|-----|------|-----|-------------|-----------|----|
| 1の1 | 南校舎1 | 国 語 | かくれみの       | 和 田 千 代   | 6  |
| 1の3 | 〃    | 理 科 | しいそり        | 岸 本 泰 子   | 8  |
| 2の1 | 中校舎1 | 理 科 | やじろべえ       | 志 水 克 子   | 10 |
| 2の3 | 〃    | 算 数 | 考えましよう      | 藤 本 栄 子   | 12 |
| 3の2 | 南校舎2 | 理 科 | 紙玉でつぼり      | 馬 場 恵 津 子 | 14 |
| 3の4 | 中校舎2 | 国 語 | 五色のしか       | 塩 谷 紀 子   | 16 |
| 4の1 | 南校舎2 | 算 数 | 面積(カードの大きさ) | 横 田 紀 子   | 18 |
| 4の3 | 〃    | 国 語 | 高い石の柱       | 岩 村 喜 代 子 | 20 |
| 5の2 | 中校舎2 | 算 数 | 面 積         | 猪 沢 久 夫   | 22 |
| 5の3 | 〃    | 理 科 | 物のあたままり方    | 山 本 重 信   | 24 |
| 6の3 | 本館2  | 国 語 | との様の茶わん     | 郡 安 義 之   | 26 |
| 特 低 | 南校舎1 | 算 数 | なかまあつめ      | 大 村 和 子   | 28 |

第2校時 10:20~11:05

| 学年組 | 場 所  | 教 科 | 題 材 名     | 指 導 者     | 頁  |
|-----|------|-----|-----------|-----------|----|
| 1の2 | 南校舎1 | 算 数 | か い も の   | 森 崎 愛 子   | 30 |
| 1の4 | 〃    | 理 科 | すなぐるま     | 谷 郷 宣 代   | 32 |
| 2の2 | 中校舎1 | 国 語 | きかん車やえもん  | 高 瀬 八 重 子 | 34 |
| 3の1 | 南校舎2 | 算 数 | 分 数       | 寺 沢 寿 美 子 | 36 |
| 3の3 | 中校舎2 | 理 科 | ほりさんのとけ方  | 平 木 君 枝   | 38 |
| 4の2 | 南校舎2 | 理 科 | 食 塩 水     | 岡 本 和 歌 子 | 40 |
| 4の4 | 〃    | 国 語 | 高い石の柱     | 牛 建 典 子   | 42 |
| 5の1 | 中校舎2 | 国 語 | 母ぐま子ぐま    | 八 瀬 典 喜   | 44 |
| 6の1 | 本館 2 | 算 数 | 立体の表面積、体積 | 三 浦 昭 子   | 46 |
| 6の2 | 〃    | 理 科 | ばねばかり     | 平 野 博     | 48 |
| 特 高 | 南校舎2 | 国 語 | かさじぞり     | 福 田 節 子   | 50 |

## 3. 開会行事・基本提案

11:20~12:10

- |            |               |         |
|------------|---------------|---------|
| (1) 挨拶     | 小宅小学校長        | 金 治 晴 治 |
|            | 全国バズ学習研究連絡会代表 | 梶 田 稲 司 |
| (2) 祝 辞    | 龍野市教育委員会教育長   | 鈴 木 武 士 |
| (3) 歓迎の辞   | 小宅小学校F T A会長  | 堀 謙 二   |
| (4) 研究経過報告 | 小宅小学校 教 頭     | 塩 津 進   |
| (5) 基本提案   | 小宅小学校 教 頭     | 山 本 重 信 |
| (6) 質 疑    |               |         |

4. 分科会 13 ; 00 ~ 15 ; 40

| 分科会名           | 助言者   | 司会者  | 提案校  | 場所           |
|----------------|---|--|--|--------------|
| 1<br>低学年部<br>① | 豊田市立小清水小学校<br>竹本篤松<br>福島市立福島小学校<br>北村純子<br>姫路市立津田小学校長<br>松岡 護<br>芦屋大学 大玉一実                | 龍野市立誉田小学校教頭<br>代田 静 恵<br>尼崎市立杭瀬小学校<br>石井 吉 平 | 豊田市立小清水小学校<br>森中鉄夫<br>徳島県優秀小学校<br>吉田ハル子<br>姫路市立網干小学校<br>河本二三             | 中校舎二階<br>303 |
| 2<br>低学年部<br>② | 滋賀県五箇荘小学校<br>石部清和<br>豊川市立千両小学校<br>丸山正克<br>兵教委生涯教育事務所<br>指導主事 原田 勉<br>加古川市立上荘小学校長<br>小川ゆずる | 揖保郡御津小学校<br>田中稔彦<br>龍野市立揖西西小学校<br>森口文代       | 五所川原市立五所川原小学<br>校 角永 寛 他<br>豊川市立中部小学校<br>夏目富美、竹尾真弓<br>龍野市立小宅小学校<br>高瀬八重子 | 中校舎二階<br>304 |
| 3<br>中学年部<br>① | 徳島市立津田小学校<br>右川 巖<br>普通寺市立筆岡小学校長<br>高橋茂雄<br>姫路市立網干小学校長<br>村岡平八                            | 姫路市立安室小学校<br>堀江 光 明<br>加古川市立上荘小学校<br>栗林 千恵子  | 善通寺市立筆岡小学校<br>梅木栄枝<br>徳島市立八万小学校<br>酒井義美<br>姫路市立広畑第2小学校<br>宮川耀江           | 中校舎二階<br>502 |
| 4<br>中学年部<br>② | 五所川原市立五所川原小学校<br>木下 巖<br>前徳島市立福島小学校長<br>西宮恒夫<br>姫路市立城南小学校長<br>永井辰夫                        | 姫路市立津田小学校<br>井上大和<br>姫路市立広峰小学校<br>板井 丞       | 豊川市立平尾小学校<br>瀬戸正夫<br>龍野市立小宅小学校<br>岩村喜代子                                  | 中校舎二階<br>503 |
| 5<br>高学年部<br>① | 徳島市立福島小学校<br>柳沢孝彦<br>長野県田中中学校<br>山田 進<br>龍野市教育委員会<br>指導主事 清水久雄<br>姫路市立安室小学校<br>吉田武男       | 龍野市立龍野小学校教頭<br>田淵 義 彦<br>加古川市立川西小学校<br>前田 功  | 豊川市立国府小学校<br>小島 毅<br>滋賀県五箇荘小学校<br>藤枝すゑ子<br>姫路市立津田小学校<br>池田正弘             | 本館二階<br>602  |

| 分科会名           | 助言者  | 司会者   | 提案校   | 場所           |
|----------------|--|---|---|--------------|
| 6<br>高学年部<br>② | 長崎市立鉄道小学校<br>荒木真寿男<br>春日井市立和領小学校<br>今尾啓一<br>龍野市立龍野小学校校長<br>西口三二                        | 姫路市立津田小学校教頭<br>加藤 実<br>赤穂市立御崎小学校<br>平井伸次      | 徳島県松茂小学校<br>春日井市和領小学校<br>梶田春由<br>姫路市立安室小学校<br>龍野市立小宅小学校<br>轟安義之                         | 本館二階<br>6の3  |
| 7<br>障害児学級部    | 広島県豊浜中学校<br>横手暹次郎<br>龍野市教育委員会<br>同和指導室長<br>安井一美  | 龍野市立揖保小学校教頭<br>三木元男<br>加古川市立児童学園<br>福井孝司      | 広島県豊浜中学校<br>大成一治<br>豊川市国府小学校<br>竹原市立竹原中学校<br>林 義治<br>龍野市立小宅小学校<br>大村和子                  | 中校舎一階<br>2の3 |
| 8<br>中学校部<br>① | 広島県豊中学校校長<br>新田正彦<br>新潟市立曾野木中学校<br>板橋鈞治<br>春日井市立東部中学校校長<br>梶田裕司<br>尼崎市立日新中学校校長<br>前田義夫 | 飾磨郡鹿谷中学校教頭<br>上野利夫<br>赤穂市立赤穂中学校<br>元高善治       | 春日井市立東部中学校<br>加納弘雅<br>広島県豊中学校<br>友田 詔三<br>姫路市立高丘中学校<br>浜田 宏<br>龍野市立龍野東中学校<br>中村朝治       | 本館二階<br>6の1  |
| 9<br>中学校部<br>② | 前高知県奈半利中学校校長<br>山崎千代松<br>豊川市立中部中学校<br>白井 仁<br>静岡県相良町<br>河村秀吉雄<br>龍野市立龍野東中学校校長<br>尾村静夫  | 姫路市立飾磨中部中学校<br>教頭 宿南勝之助<br>揖保郡太子中学校教頭<br>小野春男 | 豊川市立中部中学校<br>山口昂伸<br>春日井市立藤山台中学校<br>小川茂成、稲垣菊夫<br>佐伯 稔<br>新潟市立曾野木中学校<br>飾磨郡鹿谷中学校<br>小林昌義 | 中校舎二階<br>5の1 |





# 1. 日程

|      |      |      |       |       |       |              |               |       |       |
|------|------|------|-------|-------|-------|--------------|---------------|-------|-------|
| 8:40 | 9:10 | 9:20 | 10:05 | 10:20 | 11:05 | 11:20        | 12:10         | 13:00 | 15:40 |
| 受付   | 朝の会  | 公開授業 |       | 公開授業  |       | 開会行事<br>基本提案 | 昼食<br>アトラクション | 分科会   |       |

|      |      |       |       |       |          |       |
|------|------|-------|-------|-------|----------|-------|
| 8:40 | 9:10 | 10:30 | 10:40 | 10:50 | 11:50    | 12:00 |
| 受付   | 全体討議 | 講評    |       | 演     | 閉会<br>行事 |       |

## 2. 公開授業

第1校時 9:20~10:05

| 学年組 | 場所   | 教科 | 題材名         | 指導者   | 頁  |
|-----|------|----|-------------|-------|----|
| 1の1 | 南校舎1 | 国語 | かくれみの       | 和田千代  | 6  |
| 1の3 | 〃    | 理科 | しいそり        | 岸本泰子  | 8  |
| 2の1 | 中校舎1 | 理科 | やじろべえ       | 志水克子  | 10 |
| 2の3 | 〃    | 算数 | 考えましよう      | 藤本栄子  | 12 |
| 3の2 | 南校舎2 | 理科 | 紙玉でつぼり      | 馬場恵津子 | 14 |
| 3の4 | 中校舎2 | 国語 | 五色のしか       | 塩谷紀子  | 16 |
| 4の1 | 南校舎2 | 算数 | 面積(カードの大きさ) | 横田紀子  | 18 |
| 4の3 | 〃    | 国語 | 高い石の柱       | 岩村喜代子 | 20 |
| 5の2 | 中校舎2 | 算数 | 面積          | 猪沢久夫  | 22 |
| 5の3 | 〃    | 理科 | 物のあたらまり方    | 山本重信  | 24 |
| 6の3 | 本館2  | 国語 | との様の茶わん     | 郡安義之  | 26 |
| 特低  | 南校舎1 | 算数 | なかまあつめ      | 大村和子  | 28 |

第2校時 10:20~11:05

| 学年組 | 場所   | 教科 | 題材名       | 指導者   | 頁  |
|-----|------|----|-----------|-------|----|
| 1の2 | 南校舎1 | 算数 | か い も の   | 森崎愛子  | 30 |
| 1の4 | 〃    | 理科 | すなぐるま     | 谷郷宣代  | 32 |
| 2の2 | 中校舎1 | 国語 | きかん車やえもん  | 高瀬八重子 | 34 |
| 3の1 | 南校舎2 | 算数 | 分 数       | 寺沢寿美子 | 36 |
| 3の3 | 中校舎2 | 理科 | ほりさんのとけ方  | 平木君枝  | 38 |
| 4の2 | 南校舎2 | 理科 | 食塩水       | 岡本和歌子 | 40 |
| 4の4 | 〃    | 国語 | 高い石の柱     | 牛建典子  | 42 |
| 5の1 | 中校舎2 | 国語 | 母ぐま子ぐま    | 八瀬典喜  | 44 |
| 6の1 | 本館2  | 算数 | 立体の表面積、体積 | 三浦昭子  | 46 |
| 6の2 | 〃    | 理科 | ばねばかり     | 平野博   | 48 |
| 特高  | 南校舎2 | 国語 | かさじぞり     | 福田節子  | 50 |

## 3. 開会行事・基本提案

11:20~12:10

- |            |               |         |
|------------|---------------|---------|
| (1) 挨拶     | 小宅小学校長        | 金 治 晴 治 |
|            | 全国バズ学習研究連絡会代表 | 梶 田 稲 司 |
| (2) 祝 辞    | 龍野市教育委員会教育長   | 鈴 木 武 士 |
| (3) 歓迎の辞   | 小宅小学校PTA会長    | 堀 謙 二   |
| (4) 研究経過報告 | 小宅小学校 教 頭     | 塩 津 進 信 |
| (5) 基本提案   | 小宅小学校 教 諭     | 山 本 重 信 |
| (6) 質 疑    |               |         |

開 会 行 事      29日(金) 11:20~12:10

(1) 挨拶      小宅小学校長      <sup>かなじ</sup>金治晴治

全国バズ学習研究連絡会代表 梶田稔司先生

(2) 祝 辞      龍野市教育委員会教育長 鈴木武士先生

(3) 歓迎の辞      小宅小学校PTA会長 堀 謙二

分科会記録

29日(金) 13:00~15:40

合議録

「L2-20」

全体討議 30日(土) 9;10~10;30

分科会からの問題提起と討議

司会者 龍野市立龍野小学校長 西口三二先生

助言者 名古屋大学教育学部長 塩田芳久先生

講 師 30日(土) 10;30~10;40

兵庫県教育委員会

講演

30日(土) 10:50~11:50

演題 「授業改造と人間形成」

名古屋大学教育学部長 塩田芳久先生

閉会行事 30日(土) 11:50~12:00

謝辞 小宅小学校長 金治晴治

1. 単元 かくれみの

2. 目標

認知的目標

- 読んで、心にのこったことを話し合う。
- さし絵と文章を結びつかせながら、どんなことが書いてある。
- 文章に書かれてあることの中で、興味のあるところを見つけ

態度的目標

- 童話を読むことのおもしろさがわかり、やさしい読み物を楽
- 友だちの考えをよく聞いて、自分の考えもおはなしをする。

3. 教材のとらえ方

1年生の中ばにもなると子どもたちは読み物に対する興味は、  
ろさに集中しやすくおはなしの筋の展開や変化のおもしろさに  
その点「かくれみの」は、あらすじが把握しやすい教材であ  
たずらではあるが、機知に富んだ行動は筋の変化を読み取るのに  
おはなしできる子にさせたい。

4. 指導計画(9時間)

- 第1次 彦一はなしを読んで おもしろかったところを はなしあい
- 第2次 彦一の 行動や 気持ちを 読みとりましょう。
- 第3次 彦一は どんな子か はなしあいましょう。
- 第4次 読後の 感想を まとめて書こう。

5. 本時の目標(第2次第4時分)

- みのの灰を からだにつけて、すがたがみえなくなつた彦一の行動
- 友だちの考えをよく聞いて 自分の考えもおはなしをする。



指導案

1校時  
指導者 和田千代

か 場面ごとに読むことが できるようにする。

だすことが、できるようにする。

しんで読む。

でてきているが、その興味は 部分的なおもしろさや さし絵のおもしろ  
は あまり目を むけようとしな

ることが、第一条件にあげられる。彦一の行動が 実に愉快である。い  
最適である。おもしろい作品を 楽しく読んで 昔話の筋がはつきりと

ましよう。 ..... 1 時間

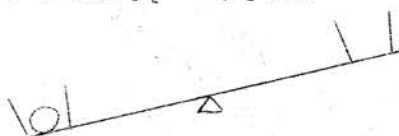
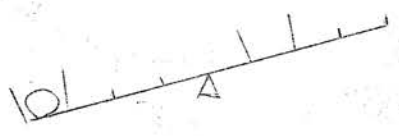
..... 4 時間

..... 2 時間

..... 2 時間

を 表現に即して 読みとる。

6. 学習課題 シーソーの上がつているほうを下げるには、どうす  
 7. 展 開

| ね ら い                                | 教 師 の 発 問  |
|--------------------------------------|--|
| <p>○課題を知り下げる方法を考<br/>える。</p>         | <p>1. 上がつているほうを下げるには、どうしたら<br/>よいでしょう。(予想)</p>     |
| <p>○おもりの重さによつて傾き<br/>が変わることを知る。</p>  | <p>2. おもりの重さを変えて、下げてみましょう。</p> <p>3. わかったことをみんなに発表しよう。(解決)</p>   |
| <p>○位置が変わるとおもりの<br/>重さも変わることを知る。</p> | <p>4. 片方の長いシーソーで下げるには、どうした<br/>らよいでしょう。(予想)</p>  |
|                                      | <p>5. 前の粘土でためして、さからなかつたらたし<br/>てみよう。</p> <p>6. わかったことをみんなに発表しよう。<br/>(まとめ)</p>   |

ればよいでしょう。

| 児 童 の 活 動  | 評 価  |
|--|--|
| <p>1. 学習のめあてを知り、どの粘土を入れたらよいか考える。</p> <p>○小さな粘土<br/>○大きな粘土</p> <p>2. 粘土をのせてたしかめる。</p> <p>○小さな粘土・・・動かない。<br/>○大きな粘土・・・下がった。</p> <p>3. 大きくて片方より集い粘土を入れるといいんです。</p> <p>4. こんどはどれくらいの粘土を入れたらよいだろう。</p> <p>○前の粘土?<br/>○もつと大きな粘土?</p> <p>5. 前の粘土ではさがらない。<br/>もつとたしてみよう。</p> <p>6. 片方が長いシーソーでは、もつと重い粘土がいる。</p> | <p>○ 学習のめあてをつかみ、下げる方法が思いついたか。</p> <p>○ おもりの重さによつて傾きが変わることがわかったか。</p> <p>○ 友だちの考えを聞き、くらべているか。</p> <p>○ 位置が変わるとおもりの重さもかわることがわかったか。</p> |

第2学年 志水学級 理科学習指導案

1. 単元 やじろべえ

2. 目標

認知的目標

- やじろべえの立ち方から おもりのはたらきを 理解する。
- 一方のおもりの重さを 変えると 傾き方が変わることを。
- 一方のおもりの位置を 変えると 傾き方が変わることを。

態度的目標

- やじろべえが つり合つて立つように グループで話し合い
- 友だちの考えを よく聞いて 自分の考えを深める。

3. 教材のとらえ方

これまでに 児童は シーソー遊びから、傾いた方が重いことや  
本教材では、やじろべえが傾いたり、傾かなかつたりする現象か  
ある。

そこで、やじろべえを傾ける条件を 指先の筋肉感覚を通じて

4. 指導計画（4時間）

- 第1次 やじろべえを立てるには どうすればよいだろう。
- 第2次 よいしせいで立つ やじろべえを作ろう。
- 第3次 大きくゆれても 落ちないやじろべえを作ろう。
- 第4次 めずらしい やじろべえを作ろう。

5. 本時の目標（第2次）

- 同じ大きさ、重さのおもり3個を使つて、よく立つやじろべえ  
解する。
- 実験を 協力して 手順よくする。

1校時  
指導者 志水克子

修正しようとする。

、どちらにも傾かない時は 両方の重さが同じであることを 経験している。  
ら、傾きが おもりの重さや位置に関係していることに 気づかせるもので

操作的に定義づけできるようにさせたい。

..... 1時間

..... 1時間

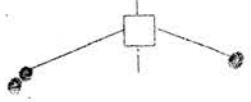

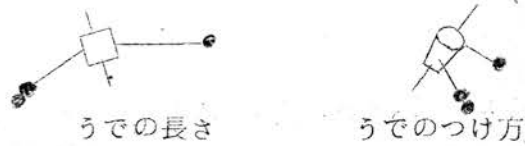
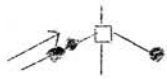
..... 1時間

..... 1時間

を 作るには どうすればよいか考えさせ、うでの長さとおもりとの関係を理

6. 学習課題 おもりを3個つかって よく立つやじろべえを 作ろう

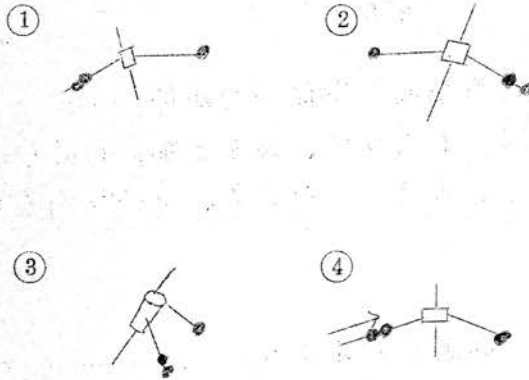
7. 展 開

| ね ら い   | 教 師 の 発 問   |
|---|---|
| <p>○ 本時の課題をつかませる。</p>  <p>○ 探求意欲をわかす。</p> <p>○ シーソーの学習を思い出させ、先行経験から考えさせる。</p>  <p>○ おもりの位置をかえるとつり合うことに、気づかせる。</p> | <p>1. このやじろべえは、まっすぐ立つだろうか。</p> <p>もう1個おもりをふやすと どうだろう。</p> <p>先生のは立たなかつたけど、どうしたら立つだろうか。 (予想)</p> <p>2. 2個と1個のおもりを使つて、まっすぐに立つやじろべえを 作ろう。</p>  <p>うでの長さ                      うでのつけ方</p>  <p>おもい方をみじかく<br/>結果について考える。(解決)</p> <p>3. まっすぐに立つやじろべえをつくる競争をしよう。</p> <p>みじかく                      ながく</p> <p>(まとめ)</p> |

児 童 の 活 動

評 価

1. 示範のやじろべえを見て問題をつかむ。
  - ・ 同じおもさだから立つよ。
  - ・ 左右のおもさがちがうから立たない。
  - ・ 1個は、そのままにして、2個の方を 上にあげるといい。
2. 2人でバズしながら、まつすぐに立つ、やじろべえを作る。



うでの長さを、考えるといいんだね

3. おもり1個の方は、うでを長くし、おもり2個の方は、みじかくするといいいんだなあ。

○本時の課題を明確につかんだか。

○3個のおもりをつかつて、まつすぐに立つやじろべえが、つくられているか。

○うでの長さをかえることによつて、つり合うことがわかったか。

1. 単元 考えましょう

2. 目標

認知的目標

○加減の順思考と逆思考、乗法の順思考と加減の逆思考とを組み  
態度的目標

- 複雑な問題も積極的に取り組み、思考力を身につける。
- 友だちの話をよく聞き、自分の考えもはつきり言えるようにす

3. 教材のとらえ方

事前テストの正登率

|         |           |     |
|---------|-----------|-----|
| 加法の順思考と | 加法の逆思考の問題 | 60% |
| 減法の順思考と | 減法の逆思考の問題 | 13% |
| 乗法の順思考と | 減法の逆思考の問題 | 38% |

児童は、具体的な場面が浮かばず、また数量間の関係がつかめ  
3要素2段階の順々思考の問題は、教科書(上)で、乗法と加  
では、逆思考も取り扱い、思考力を高めていきたい。そこで、テ  
ように方向づけたい。

4. 指導計画(6時間)

- 第1次 加減の順思考と 加法の逆思考の問題を考えよう。……
- 第2次 加減の順思考と 減法の逆思考の問題を考えよう。……
- 第3次 乗法の順思考と 加減の逆思考の問題を考えよう。……

5. 本時の目標(第1次第1時分)

- たずねていることを見つけるために、テープ図を用いて関係を
- 自分の考えと、友だちの考えと比較し、訂正することができる。



1 校時  
指導者 藤 本 栄 子

合わせた 3 要素 2 段階の問題が、解けるようにする。

る。

にくい。

渾の順思考は「かけ算 2」で、かけ算の適用をかねて取り扱ってきた。本単元  
一ページを用いて具体化させ、問題に対する抵抗を少なくし、合理的に解決する

..... 2 時間

..... 2 時間

..... 2 時間

とらえ解決していく。

6 学習課題 たずねていることを 紙テープを使ってしらべましょ

7 展 開

| ね ら い         | 教 師 の 発 問   |
|---------------|---|
| ○ 趣意をつかむ。     | 1. ① P 5 2 の ① の問題で、わかっていること、たずねていることに、線を引きながら読みましょう。<br><br>(個人 → グループ → 全体) |
| ○ 図を作り、見つけ出す。 | 2. 紙テープを使って、考えましょう。   |
| ○ 確かめる。       | ・ 自分の考えと友だちの考えと比べてみましょう。<br><br>(グループ → 全体)                                   |
| ○ 類似問題が解ける。   | 3. ② の問題を読んで、図に書いてみましょう。<br><br>(個人 → グループ)                                   |
| ○ ちがいをさぐる。    | 4. ① の問題と ② の問題のちがうところをみつけましょう。<br><br>(グループ)                                 |

。

| 児童の活動  | 評価 |    |    |    |    |    |   |
|--|----|----|----|----|----|----|---|
| <p>1. わかっていること——線、たずねていること</p> <p>~~~~~線を引きながら読む。</p> <p>—— {</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 男の子が 5人きた</li><li>• 女の子が 8人きた</li><li>• みんなで 30人</li></ul> <p>~~~~~</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• はじめ なん</li></ul> <p>○ 問題の内容を確かめ合う。</p> <p>2. テーブル図を作る。</p> <table border="1" data-bbox="240 904 683 1043"><tr><td>□人</td><td>5人</td><td>8人</td></tr></table> <p>~~~~~</p> <p>30人</p> <p>○どんなになったか話し合う。</p> <p>○グループの考えを、話し合う。</p> <p>3. ②を読んで、①と同じように図を作る。</p> <table border="1" data-bbox="240 1290 683 1402"><tr><td>6人</td><td>9人</td><td>□人</td></tr></table> <p>~~~~~</p> <p>41人</p> <p>○各自で解き、確かめ合う</p> <p>4. ①と②を比べて、ちがうところを話し合う。</p> <p>5. 次時の課題を知る。</p> | □人 | 5人 | 8人 | 6人 | 9人 | □人 | <p>○正しい内容に線が引けたか</p> <p>○題意をつかんだか。</p> <p>○図が作成できたか。</p> <p>○自分の考えと友だちの考えを比較できたか。</p> <p>○類似問題が解けたか。</p> <p>○ちがいが見つげられたか。</p> |
| □人   | 5人 | 8人 |    |    |    |    |   |
| 6人   | 9人 | □人 |    |    |    |    |   |

第3学年 馬場学級 理科学習指導案

1. 単元 紙玉でつぼう

2. 目標

認知的目標

- 紙玉でつぼうで閉じこめられた空気に力を加えたときの様子
- 押し縮められた空気がもとにもどろうとする力は、手ごたえ

態度的目標

- 紙玉でつぼうの飛ぶ原因を追求しようとする。
- 話し合いによつて、ひとりひとりの考えを深めようとする。

3. 教材のとらえ方

これまで児童はゴムふうせんなどに空気を閉じこめたりして閉かきのあることを理解している。これらの先行経験の上になつてわけを探究的にとらえさせる教材である。

4. 指導計画（6時間）

- 第1次 よく飛ぶ 紙玉でつぼうを作ろう。
- 第2次 紙玉を遠くへ飛ばすには、どうすればよいだろうか。
- 第3次 後玉を押ししているのに、前玉がなぜ飛ぶのだろうか。
- 第4次 空気を押し縮めると、どうなるのだろうか。
- 第5次 紙玉でつぼうの飛ぶわけをまとめよう。

5. 本時の目標（第3次第1時）

- 後玉で押し縮められた空気が前玉を押し紙玉の飛ぶことを理解
- 話し合いによつて、ひとりひとりの考えを深める。

1 校時

指導者 馬 場 恵津子

から空気の性質を理解する。

や力を受ける物の動きによつて強弱かわかる。

じこめた空気は水中で泡になることや、泡を水中で集めることから空気には  
空気を閉じこめて力をくわえるともともにもどろうとして紙玉でつぼうの飛ぶ

..... 1 時間

..... 1 時間

..... 1 時間

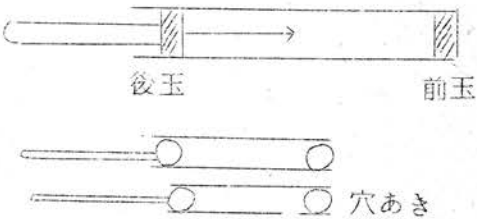
..... 2 時間

..... 1 時間

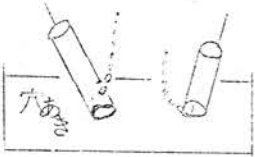
并する。

6. 学習課題 紙玉でつぼうの後玉を押ししているのに前玉がなぜ飛ぶの

7. 展 開

| ね ら い  | 教 師 の 発 問   |
|--|---|
| <p>○紙玉でつぼうの飛ぶわけの予想をたて課題をつかむ。</p> <p>○穴あき紙玉でつぼうを混入し空気の存在に気づく。</p> <p>○空気の存在を明確にするため水の中でうつ。</p> <p>○ゆつくりうつて空気の縮む様子を観察する。</p> | <p>1. 紙玉でつぼうはなぜ飛ぶのでしょうか。(予想)</p> <p>2. 後玉が筒の途中でも前玉が飛び出すのはなぜか。<br/>(モデル紙玉でつぼう)</p>  <p>3. 後玉と前玉の間に空気があるのは、どうしたらわかるだろう。(解決)</p> <p>4. ゆつくりうつて中の空気がどうなるか調べよう。</p> <p>5. 紙玉でつぼうの飛ぶわけをまとめよう。(まとめ)</p> |

だろう。

| 児 童 の 活 動   | 評 価   |
|---|---|
| <p>1. 紙玉でつぼうの飛ぶわけを考える。<br/>後玉が前玉を押し。<br/>ほうの力で飛ぶ<br/>空気の力で飛ぶ</p> <p>2. モデルを見て玉の位置に注意しながら透明紙玉でつぼうを打つてみる。<br/>○ どうして途中で玉が飛んでしまうのかな。<br/>○ 飛ぶのと飛ばないのがある。穴のあいたのは空気がもれている。</p> <p>3. 後玉と前玉の間に空気があるのは、どうしたらわかるか考える。</p>  <p>4. 後玉をおすと中の空気がちらんで前玉が飛び出す。</p> <p>5. 紙玉でつぼうの飛ぶのは、おしちぢめられた空気が前玉を押し出すのだなあ。</p> | <p>○ 先行経験を駆使して予想がたてられたか。</p> <p>○ モデルを見て紙玉の飛ぶわけについて疑問を持ったか。</p> <p>○ 穴あき紙玉でつぼうで空気の存在に気づいたか。</p> <p>○ ゆづくりうつことで空気の押し縮められたことがわかったか。</p> |

1. 単元 五色のしか

2. 目標

認知的目標

- 読んで感想が、持てるようにする。
- 表現に即して読み、表現のすぐれているところに気づく。
- 音話に、興味を持ち、人間の生き方や信頼する心のたいせつ

態度的目標

- 人物や動物の行動、心情を読みとり、自分と比べて感想を持
- 友だちの考えをよく聞き、自分の考えをしつかり話す。

3. 教材のとらえ方

三年生の子どもたちの読書への興味は、さまざまであり 多種なく、深く豊かな読みとりができにくい。

ちようどこの教材では、登場人物の心情が細かく表現されておそこで、「悪い男だ。」「えらい鹿だ。」という表面的な読みでな批判的、共感的な読書力を養い主体的な読みへの態度を、身につ

4. 指導計画 (11時間)

- 第1次 全文を読んで学習計画をたてよう。
- 第2次 文字や 語句をしらべよう。
- 第3次 場面ごとに、しか・男・王様の気持ちを考えよう。 }  
新しい立てふだを、たてたわけを考えよう。 }
- 第4次 感想を書いて、発表しよう。

5. 本時の目標

- 男の立場にたつて、約束と宝物と、どちらにするかまよう気
- 友だちの意見を、自分の意見と比べながら聞く。



案

1校時

指導者

塩谷紀子

さに気づく。

つようにする。

多様の読み物に関心を、示している。しかしまだまだ浅い読みとりしかでき

り、構成が巧みであるので、児童は、自分の気持ちと比べて読みとりやすい。く、人物の言動や、考え方に対し、「自分ならどうする」と、常に問いかけ、けさせたい。

..... 2時間

..... 1時間

..... 5時間

..... 3時間

持ちを、文中より考え人間の心の弱さを、見つける。

6. 学習課題 「かたいやくそく」をした男は、それからどうしたのでし

7. 展 開

| ね ら い                                | 教 師 の 発 問  |
|--------------------------------------|--|
| ○課題の確認をする。                           | 1. 「かたいやくそく」は、それからどうなったのでし<br>よう。<br>(グループ)<br>↓<br>(全 体)  |
| ○約束を破ったわけを、文中<br>よりみつける。             | 2. なぜ男は、やくそくを、やぶったのでし<br>よう。<br>(個人)<br>↓<br>(グループ)<br>↓<br>(全 体)                                    |
| ○男の気持ちを文中よりつか<br>み、そのうつりかわりを考<br>える。 | 3. 「おふれ」を見てからの男の気持ちのうつりかわり<br>を、考えてみましょう。どんなことはわかるか本で<br>調べなさい。<br>(個人)<br>↓<br>(グループ)<br>↓<br>(全 体) |
| ○ 自分と比べて考える。                         | 4. 自分が男だつたらどうか。<br><br>5. まとめ読みをしましょう。   |

よう。

| 児 童 の 活 動   | 評 価   |
|---|---|
| <p>1. ②の場面を、読んで考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男がやぶつた</li> <li>・男がわすれた</li> <li>・男が守らなかった。</li> </ul> <p>2.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;">おふれ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">五色のしかをさがし出した者には、ほ<br/>うびとして金や銀の宝物を与える。</div> <p>をみたから</p> <p>○ 金や銀がほしいから</p> <p>3.</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">約束を守る心</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">宝を思う心</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>一日</p> <p>↓</p> <p>二日</p> <p>↓</p> <p>三日</p> <p>↓</p> <p>四日</p> </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にも話<br/>しません</li> <li>・いやいや</li> <li>・うかんで</li> </ul> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うで組み</li> <li>・よし</li> <li>・消える</li> </ul> </div> </div> <div style="margin-left: 100px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まよい</div> <p>↓</p> <p>とうとう申しあげます。</p> </div> <p>4. やつぱり宝がほしい → 人間の心</p> <p>5. 男の気持ちを考えて読む。</p> | <p>○ 進んで学習できているか</p> <p>○ 約束を破つたわけが、考<br/>えられたか。</p> <p>○ 男の気持ちが考えられたか</p> <p>○ 自分の考えを進んで、発表<br/>し、友だちの考えをしつかり<br/>聞くことができたか。</p> |

1. 単元 面積

2. 目標

認知的目標

- 面積の概念を明らかにし、面積の単位  $1\text{cm}^2$ 、 $1\text{m}^2$  および  $a$ 、
- 方眼を使つて面積を求めることができるようにする。
- 長方形、正方形の面積の求め方、および、その公式を理解し

態度的目標

- いろいろな大きさの長方形や正方形の面積の求め方を考える
- 友だちの意見をよく聞いて、自分の考えと比べ発表する。

3. 教材のとらえ方

今まで学習した  $g$ 、 $kg$ 、 $t$ 、 $m$ 、 $km$  など重さ長さの単位を、宛れに  $g$  と  $kg$  の関係、 $kg$  と  $t$  の関係を正しくとらえてはいないで、そこで、新しい面積の単位を指導する際、広さの大小の比較からの計算にならないようにしたい。

4. 指導計画（8時間）

- 第1次 全体計画をたてる。
- 第2次 どちらがどれだけ広いか考えよう。
- 第3次 すな場の面積を求めよう。
- 第4次 公式を使つて長方形や正方形の面積を求めよう。
- 第5次 広い土地の面積を求めよう。
- 第6次 ふく畷をしよう。

5. 本時の目標（第2次第1時分）

- 長方形と正方形のカードの広さ比べから、面積の単位  $1\text{cm}^2$  を知る
- 方眼の目を数えて、図形の面積を求めたり、与えられた面積の図
- 友だちの意見をよく聞いて、自分の考えと比べ発表する。

1 校時

指導者 横 田 紀 子

ha、 $K_{\text{面}}$ を知る。

、これを用いることができるようにする。

。

童は知つてはいるものの、具体的にどれぐらいかわからないことが多い。そ  
 $kg$ の方をもより大きいと考えてみたりする。

単位量の必要を認めさせ、方眼を使い具体的に面積を求めさせ、単に公式だ

..... 1 時 間

..... 1 時 間

..... 1 時 間

..... 1 時 間


..... 2 時 間

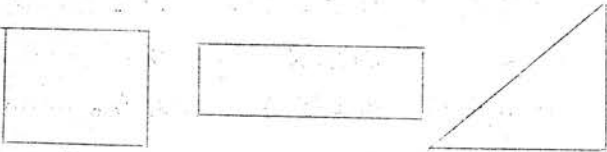
..... 2 時 間

。形を書く。

6. 学習課題 どちらがどれだけ広いだろう。

7. 展 開

| ね ら い                           | 教 師 の 発 問  |
|---------------------------------|--|
| ○興味づけをする。                       | 1. どちらが広いでしょう。<br>(全 体)  |
|                                 |  |
| ○面積の単位<br>1 cm <sup>2</sup> を知る | 2. どれだけ広いでしょう。 (個 人)<br>↓<br>(グループ)<br>↓<br>(全 体)                                  |
| ○面積を求める。                        | 3. 上のカードの面積は何cm <sup>2</sup> でしょう。   |
| ○与えられた面積の図形を書く。                 | 4. 面積が8 cm <sup>2</sup> の図形を、TPに書いてみましょう。<br>(個 人)<br>↓<br>(全 体)                   |
| ○学習を確かめる。                       | 5. 今日の勉強をグループで確かめましょう。   |

| 児 童 の 活 動   | 評 価  |
|---|--|
| <p>1. 長方形の方が広いだろう。<br/>正方形の方が広いだろう。</p> <p>2. 比べ方を考える。<br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 重ねてみる。</li> <li>• 折ってみる。</li> <li>• もとになるものがある。</li> </ul>           方眼紙で比べてみる。<br/>           正方形の方が1こ分広い。<br/>           単位1cmの読み方、書き方を知る。</p> <p>3. 面積を求める。</p> <p>4. TPに図形を書く。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>書いた図をOHPで発表する。</p> <p>5. 勉強したことを確かめる。</p> <p>6. 次時の学習課題を知る。</p> | <p>○興味を持って学習しているか。</p> <p>○自分で比べているか。</p> <p>○cmが正しく読め書けるか。</p> <p>○図形が書けたか。</p> <p>○確かめができたか。</p> |

1. 単元 高い石の柱

2. 目標

認知的目標

- 登場人物や作者の考え方を読みとり、人間としての生き方に
- 表現に即して、場面やその情景を思いえかくようにする。

態度的目標

- 読みとつたことについての友だちの感想や意見を聞き、ひと
- 友だちの考えと比べながら、自分の考えを話そうとする。

3. 教材のとらえ方

児童は、いろいろな読み物を読んで、作中の人物の言動に対する程度の理解はできるようになってきている。

本教材についての事前テストの結果では、人物の性格のアウト  
指導に当っては、人物の言動の裏にあるものの考え方について深  
を読みとることによって、人間としての生き方を考えさせるのに

4. 指導計画 (10時間)

- 第1次 全体の計画をたてる。.....
- 第2次 王様、家来、石屋はどんな人だろう。.....
- 第3次 作者のいたいことは何だろう。.....
- 第4次 感想文を書こう。.....
- 第5次 他の作品も読もう。.....

5. 本時の目標 (第2次第4時分)

- 石屋の言動から考え方を読みとり、それについての意見や感想
- 自分の考えをしつかり持つて、友だちの意見や感想をだいに



1校時

指導者 岩村喜代子

ついて考えるようにする。

りひとりの受け取り方のちがいについて考えようとする。

て意見や感想を持つようになつてきている。また、作者の意図についても、あ

ラインはとらえているが、そのとらえ方に一方的な傾向がみられる。そこで、めさせ、感想を持つようにさせたい。また、6、7の文については作者の考えは好適であると思われる。

..... 1時間

..... 4時間

..... 2時間

..... 1時間

..... 2時間

を話し合い、人間としての生き方について考える。  
働こうとする。

6 学習課題 石屋はどんな人だろう。

7 展 開

| ね ら い               | 教 師 の 発 問  |
|---------------------|--|
| ○石屋の人柄を文表現からみつける。   | 1. 石屋はどんな人だと思いますか。また、それはどこでわかるか本を読んで調べましょう。<br>(個人)<br>↓<br>(グループ)<br>↓<br>(全体)    |
| ○場面や情景から気持ちを考える。    | 2. 「殺すつもりらしい。」とわかった時に、石屋はどんなことを考えたでしょう。<br>(グループ)<br>↓<br>(全体)                     |
| ○石屋の考えや行動について感想を持つ。 | 3. 殺されようとしたのに、下へおりたら手を取り合つて家へ帰つた石屋についてどう思いますか。<br>(個人)<br>↓<br>(グループ)<br>↓<br>(全体) |
| ○学習の整理              | 4. この時間の学習をまとめましょう。  |
| ○発 展                |  |

| 児 童 の 活 動  | 評 価   |
|--|---|
| <p>1. 物語の4・5を読んで、石屋はどんな人だと思ふか。それが文のどこでわかるか調べる。</p> <p>○ おどろいた。</p> <p>↓</p> <p>○ 殺すつもりらしい。</p> <p>↓</p> <p>○ じつと考えこんだ。</p> <p>↓</p> <p>・細く細く<br/>・そつとそつと<br/>・やすやすと</p> <p>↓</p> <p>○ 手を取りあつて家へ。</p> <p>2. 石屋の気持ちを考える。</p> <p>○ だまされたな。</p> <p>○ なぜ殺されるのだから。</p> <p>○ 高い石の柱を作らせてあげたのに、王様は何をしているのか。</p> <p>3. 自分の感想を書く。</p> <p>○ しかえしをしない人だ。</p> <p>○ 本当にこんな気になるだろうか。</p> <p>○ おちついていてよかった。</p> <p>4. 板書を見ながらまとめる。</p> <p>○ 次時の学習課題を知る。</p> | <p>○ 文表現をおさえて個人思考ができたか。</p> <p>○ 自分の考えと友だちの考えを比較しながら話し合いに参加したか。</p> <p>○ 石屋の気持ちについて深められたか。</p> <p>○ 石屋の生き方について考えることができたか。</p> <p>○ 初めの考えと比べて自己評価する。</p> |

1. 単 元 平行四辺形、 台形、 ひし形の面積

2. 目 標

認知的目標

- 平行四辺形、台形、ひし形の面積の求め方を考えそれを公
- 公式を用いて、面積を求めることができるようにする。

態度的目標

- 公式を作り出すまでの過程を論理的に追求しようとする。
- 自発的に個々の考えを拡げ、友だちと協力しあつて、さら

3. 教材のとらえ方

面積を求める学習は、前学年でもまた本題材に至るまでにも、法で図形を求積してきており、面積測定についての理解は一応深する時、長さを測つて面積を計算で求めればよいと安易に考えてない児童が目立つて多い。

かかる点を充分考慮して、最も合理的な求積方法を生み出させ

4. 指導計画 ( 3 時間 )

- 第1次 平行四辺形の面積の求め方を考えよう。.....
- 第2次 台形の面積を求める方法をいろいろ考えよう。.....
- 第3次 ひし形の面積の求め方を考えよう。学習を思い出し

5. 本時の目標 ( 第2次第1時分 )

- 方眼紙上にかかれた台形で、いろいろな方法で最も合理的
- 自分の考えを進んでのべ、他の意見も求めて互いにみかき

案

1校時

指導者 猪沢久夫

式の形にまとめる。

に深めようとする。

合同な直角三角形を組み合わせる。三角形を分割する。等積変形するなどの方  
まっつていと考えられる。しかし儘々に入つて、本学級の実態をつぶさに観察  
その根底に、単位面積がいくつ並ぶかという測定のもとの意味が理解されてい

、それが公式化されていくよう、この点に特に重点をおいて指導していきたい。

..... 1時間

..... 1時間

て問題を解こう。..... 1時間



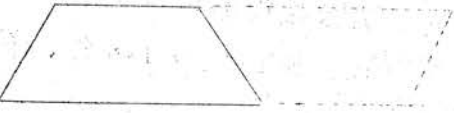
なものとして、台形の求積公式を見つける。

あおうとする。

6 学習課題 台形の面積を求める公式を考えよう。

7 展 開

| ね ら い  | 教 師 の 発 問   |
|--|---|
| <p>○ 本時学習のねらいを知る。</p> <p>○ それぞれの能力に応じて、既習の知識をうまく出させて、考える。</p><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><p>○よりよい求積方法を知る。</p> <p>○求積の公式がわかる。</p><br><br><br><br><br><br><br><p>○公式をつかって求積する。</p> | <p>1. きょうの課題を確認させる。</p> <p>2. 方眼紙上の台形をいろいろな方法によって、面積の求め方を調べよう。</p> <p style="text-align: right;">(個人)</p> <p style="text-align: right;">(グループ)</p><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><p>3. どんな求積方法があったか発表しよう。</p> <p style="text-align: right;">(全体)</p> <p>4. ことばの式で表わしてみよう。</p> <p style="text-align: right;">(まとめ)</p><br><br><br><br><br><br><br><p>5. 公式を使って面積を求めてみよう。</p><br><br><br><br><br><br><br><p>6. 次時学習課題の予告</p> |

| 児 童 の 活 動  | 評 価   |
|--|---|
| <p>1. 本時の学習のめあてを知る。</p> <p>2. 方眼紙上に書かれた台形の面積の求め方を考える。</p> <p>○二つの三角形に分ける。</p>  <p>○三角形になおしてする。</p>  <p>○合同な2つの台形にする。</p>  <p>3. 求積方法を話しあい、もとめやすいのを見つける。</p> <p>4. みつけた方法をことばの式で表わしてみる。</p> <p>(上底+下底)×高さ÷2</p> <p>5. 他の台形でも、たしかめてみる。</p> <p>6. 次時学習課題を知る。</p> | <p>○めあてを知ったか。</p> <p>○意欲的にとりくんだか。</p> <p>○分割、変形、合同などいろいろな方法が考えられているか。</p> <p>○進んで自分の考えを述べ、深めたか。</p> <p>○よりよい方法がわかったか。</p> <p>○もつとやりたい気持ちがあるか。</p> |

角  
り  
せ



1. 単元 物のあたたまり方

2. 目標

認知的目標

- 温度及び量の異なるものを触れ合わせ、熱と温度の関係を
- 金属の一端を暖めたとき、暖められた所を中心に熱が移動
- 金属、水、空気では、熱の移動のし方に違いがあることに
- 金属が熱せられたとき、長さや体積が変化することを理解

態度的目標

- 課題と生活経験を関連づけて考察をする。
- 友たちの意見をよく聞き、正しい点を取り入れ思考を深め

3. 教材のとらえ方

学習、生活経験によつて、物の暖め方は技能的には相当習得し  
度の変化) 12%、金属のほう張22%、水の伝導18%、対流  
した認識はないものと考えられる。

本単元では、金属、水、空気を熱したときの熱の移動のし方、  
るものである。そこで、経験を体系化させ、実験条件を整理、

4. 指導計画 (9時間)

- 第1次 全体計画をたてる。
- 第2次 少量の熱湯と多量の水を触れさせると温度はどうなるか
- 第3次 金属の棒や板の一部を熱すると、熱はどのように伝わるか
- 第4次 金属の棒や球を熱すると、長さや体積はどうなるか
- 第5次 水や空気を熱すると、熱はどのように伝わるだろう。

5. 本時の目標(第5次第1時分)

- 水は熱せられると、暖まつた部分が上にあがり全体が暖まる
- 友だちの考えをよく聞き、予感を仮説に高める。

1校時  
指導者

山本重信

考察する。  
することを理解する。  
気づく。  
する。

る。

ている。しかし、児童の認識率は、熱と温度の関係、10%、金属の移動(角  
の原因0%、したがって温度変化の原因である熱の移動については、はつきり

それにとまなうほう張、収縮など熱エネルギーに対する初歩的な認識を持たせ  
単純化して目標の達成をはかりたい。

..... 1時間  
るだろう。..... 1時間  
つるだろう。..... 2時間  
ろう。..... 2時間  
..... 3時間

ことを理解する。

6 学習課題 水が熱せられて暖められると、上に上がるのはなぜだろう

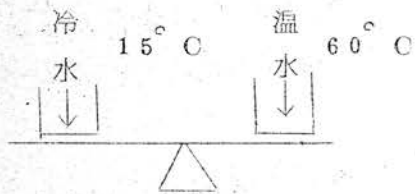
7 展 開

| ね ら い  | 教 師 の 発 問  |
|--|--|
| <p>○考えるとともに、意見をよく聞く。</p> <p>○条件を統一する。</p> <p>○温水は冷水より軽いことを知る。</p> <p>○温水は冷水の中で、上に上ることを知る。</p> <p>○対流を理解する。</p> | <p>1. 水を下から熱すると、上に上るのはなぜだろう。<br/>(個人)<br/>(グループ)<br/>(全体)</p> <p>○重さを比べるには、どうしたらよいだろう。<br/>(全体)</p> <p>○実験して確かめよう。</p> <p>○どんなことがわかりましたか。<br/>(全体)</p> <p>2. 下図の実験をするとどうなるだろう。<br/>(個人)</p> <div data-bbox="853 1176 1436 1344" style="text-align: center;"> </div> <p>(赤い水) (赤い水) グループ全体</p> <p>3. 水を下から熱すると、上に上るのはなぜだろう。<br/>(全体)</p> <p>4. 次は空気の暖まり方だね。</p> |

児 童 の 活 動

評 価

1. 各自で予想をたてる。
  - ・熱のいきおい。
  - ・暖かい物は上がる。
  - ・軽くなつて上がる。



- ・方法を考える。
- てんびん
- 水の量

- 実験する。
  - 結果をまとめる。
  - 温水は冷水より軽い。
2. 予想し話し合う。
    - 70°Cの赤い水は上がり
    - 15°Cの赤い水は下がる。

3. 本時のまとめをする。
  - 暖まる      ぼう張する      軽くなる
  - 上方に移動する。

○仮説がたてられたか。

○温水は冷水より軽いことを理解できたか。

○温水は上に上ることを理解できたか。

○熱    ぼう張    軽  
上昇が理解できたか。

1. 単元 どの様の茶わん

2. 目標

認知的目標

- 作品の主題を的確にとらえることができるようにする。
- 物語を読み、その感想を比べ合い、豊かな読み取りがで

態度的目標

- 読書して、自分の考え方の変化を考えるようにする。
- 自分の意見と比べながらメモをとり、ともに考えを深め

3. 教材のとらえ方

児童は推理小説から文学的な読み物にかわり読書意欲も高ま  
つかめるようになった。

「どの様の茶わん」を通じて描き出した作者の物の考え方、  
かかわる人の心のあり方を読み考えさせようとしている。

いろいろな本を読んで自分の感じ方や考え方がどのように変

4. 指導計画（10時間）

第1次 全文を読み作者が言おうとしていることを話し合う。  
学習計画を立てる。

第2次 どの様ととう器師の考え方を読みとる。.....

第3次 感想文を書きお互いに比べ合う。.....

第4次 他の作品について読み深める。.....

5. 本時の目標（第2次第1時分）

- との様と有名なとう器師がどのように変革したかあら筋を構
- 自分の意見と比べながら聞き、ともにグループの考えを高め

導案

1校時

指導者 郡 安 義 之

きるようにする。

ようとする。

ってきた。前期の「やまなし」の教材の読解も人生の価値を知り筆者の意図が

人のさとし方、導き方の価値観を児童の生活や意見と比べながら物事の価値に

わつたかを考えさせ、豊かな読み取りができるよう導きたい。

..... 2 時間

..... 4 時間

..... 2 時間

..... 2 時間

造的にまとめ、主題を的確に読みとるようにする。

ようとする。

- 6 学習課題      との様と有名なとう器師がどのようにかわつたか。
- 7 展      開

| ね      ら      い   | 教      師      の      発      問  |
|---|--|
| <p>○ 学習課題をつかむ。</p> <p>○ 中心となる事柄をとらえる。</p> <p>○ 物語の中心がどこにあてはまるかをおさえてそれぞれの関係づけてまとめる。</p> <p>○ まとめたことを発表したしかめる。</p> <p>○ 表組みにかきこむ。</p> | <p>1. きょうの課題は何ですか。</p> <div data-bbox="1023 524 1559 589" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>との様と有名なとう器師がどのように</p> </div> <p>2. 文章の必要なところに線を引いてからノートにかきましょう。</p> <div data-bbox="1002 801 1559 1377" style="margin: 20px 0;"> <pre> (個人)   ↓ (グループ)   ↓ (全体)           </pre> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">前文</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-top: 100px;">本文</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-top: 100px;">結び</div> </div> <div style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</div> <div style="vertical-align: middle;"> <p>むかし</p> <p>&lt;</p> <p>ある日</p> <p>○</p> <p>あると</p> <p>・</p> <p>旅行を</p> <p>・</p> <p>とう</p> </div> </div> </div> <p>3. 学習のまとめをしよう。</p> <p>4. 本時の反省をしよう。</p> |



| 児 童 の 活 動  | 評 価   |
|--|---|
| <p>1. 課題の確認をする。</p> <p>変わったか。</p> <p>2. 調べでわかったことをノートに書き話し合う。</p> <p>ある国に<br/>有名なとう器師&gt;<br/>のこと      との様生活<br/>軽い、いい音、上等<br/>うす手茶わん、わずらわしい生活<br/>苦しみの連続<br/>き      ・百姓生活<br/>あつ手の茶わんの生活<br/>親切心      真心<br/>を終えて<br/>かる日<br/>器師は・・・それから( )</p> <p>3. 表組みにまとめる</p> <p>4. 自己評価      グループ評価</p> | <p>○ 物語の中心となる事柄がつかめたか。</p> <p>○ 課題にそつて話し合いが深まったか。</p> <p>○ 自分の意見と比べながら聞くことができたか。</p> <p>○ 自己評価、グループ評価ができたか。</p> |

1. 単 元 なかまあつめ

2. 目 標

認知的目標

- 2種類以上の集合づくりをすることにより、偏物の性質
- 色彩にまどわされずに、形によつて集合づくりをし、共

態度的目標

- いろいろなものの中から同一性と差異性をよく見きわめ
- 気おくれせず、話すことができるようにする。

3. 教材のとりえ方

実 態

| 氏 名  | 学 年 | 性 | I Q | M A | 集 合      |
|------|-----|---|-----|-----|----------|
| W. Y | 1   | 女 | 6.6 | 4.2 | 3種類以上の中か |
| M. M | 2   | 女 | 4.2 | 3.2 | 1種類を集めてい |
| F. U | 2   | 女 | 6.6 | 5.0 | なかまはずれを、 |
| H. H | 2   | 女 | 8.2 | 6.6 | 大体集合づくりは |
| M. S | 2   | 男 | 8.2 | 6.6 | 類型化することか |
| M. N | 3   | 女 | 8.0 | 7.1 | いろいろな観点か |
| S. Y | 3   | 女 | 8.5 | 8.0 | 類別しても、理由 |

数量に対して理解しにくく、中には1種類だけでも集めることがで  
 の発達段階に応じて、知的学習の基礎として、折にふれ、具体物、紙  
 、概念を明確化させていきたい。

4. 指導計画 (6時間)

第1次 いろいろなもの なかまあつめをしよう。

第2次 形によつて なかまあつめをしよう。

5. 本時の目標 (第2次第1時分)

- 直観的に、形の差異を見つけて なかまあつめができる。(A)

香 指 導 案

1 校 時

指 導 者 大 村 和 子

を理解する。

通な性質を抽出する。

て、処理する態度をつくる。

に つ い て の 認 識

ら、指名した個物かとり出せるか、長ささしない。

でも、途中からわからなくなることがある。

みつけにくい。

できるが、その理由づけが、発表しにくい。

、少し困難である。

ら、集合づくりをすることが、困難である。

目づけがしにくい。

きないため、4 という数が、理解出来ないものが、2 名いる。そこで、児童  
カード等を用いて集合づくりをさせることにより、個物に対する認識を深め

8 時 間

8 時 間












- 大きさ、色彩に関係なく、辺や頂点に観点をむけ、なかまあつと
- わからないことは進んで、友だちや先生に尋ねて、集中して

6. 展 開

| ね ら い                      | 学習課題  | (A) $\triangle$ $\square$ $\square$ $\circ$ にわける。  | (B) $\triangle$ と $\square$ $\square$ |
|----------------------------|---|--|---------------------------------------|
| ○色に関係なく形を選ぶ                | <p>1. この形は、なんといいますか。</p> <p>・ <math>\triangle</math> ・ <math>\square</math> ・ <math>\square</math> ・ <math>\circ</math> の名前を発表する。</p> <p>2. <math>\triangle</math> は、<math>\square</math> 赤 ・ <math>\triangle</math> 黄 ・ <math>\circ</math> 緑 ・ <math>\square</math> 青 のどのな</p> <p>: A児より、各自の <math>\triangle</math> 赤 を 黒板に貼る。</p> |  |                                       |
| ○しかくの用語を知る (A)             | <p>3. 同じ形の箱へ入れましょう。</p> <p>・ <math>\triangle</math> <math>\square</math> <math>\square</math> <math>\circ</math> の箱に入れる。<br/>(個人)</p> <p>・ みくらべる (グループ)</p>   | <p>3. 三角と四角の<br/>ましよう。</p> <p>・ <math>\triangle</math> と <math>\square</math> <math>\square</math></p> <p>・ わけを話す</p>  |                                       |
| ○辺、頂点の用語を知る。<br>(B・C)      | <p>4. 同じ色の箱へ入れましょう。</p> <p>・ 赤、黄、青、緑の色分けを<br/>する。</p> <p>・ みくらべる。(グループ)</p>   | <p>4. どのなか</p> <p>・ <math>\triangle</math> <math>\square</math> をみつ</p> <p><math>\triangle</math> <math>\square</math> <math>\square</math> <math>\triangle</math> <math>\square</math></p> <p>・ たしかめ合</p> |                                       |
| ○三角形、四角形の概念を<br>まとめる。(B・C) | <p>5. <math>\triangle</math> <math>\square</math> <math>\circ</math> の形を書きましょう。</p> <p>・ 色板を見て書く。</p> <p>・ どれがよいか見せ合う。<br/>(グループ)</p>   | <p>5. ひごで<math>\triangle</math><br/>みましよう</p> <p>・ 長さ、角の<br/>、みせあい</p>   |                                       |
|                            |   |  |                                       |

りができる。(A, C)

よかまあつめができる。

| □ にわかる   | (C)    にわかる                            | 評 価                   |
|--|---|-----------------------|
| (全 体)  |   | ○ 能力に応じて名称を理解しているか。   |
| かまでしよう。  |   |                       |
| ○ なかまにわけ   | 3. 3つのなかまにわけましょう。   | ○ 形に対して相違点がわかったか。     |
| にわかる(個人)<br>(グループ)   | ・考えてわかる。(個人)<br>  <br>・見くらべる。(グループ) | ○ 友だちとたしかめあったか。       |
| まへ入るでしよう   | 4. ひごで同じ三角形を作りましょう。   |                       |
| ける。<br>  <br>う。 | ・長さ、角を考えて作る。(個人)  | ○ 辺の長さ、角の大きさに観点をおいたか。 |
|   を作つて   | ・名前を本で調べる。(グループ)  |                       |
| 大きさを考えて<br>ながら作る。  | 次は、ふたつのなかまに分けよう。  | ○ 集中してなかまづくりができたか。    |

1. 単元 かいもの
2. 目標

認知的目標

○ (何+何)  $\pm$  (何+何) で繰り上がり 下がりのない場合の計

態度的目標

- みんなが協力して課題に取り組み、最適な計算方法を見つける
- 友だちの話をよく聞き、自分の考えもはつきり言えるようにす

3. 教材のとらえ方

| 問 題 (事前テスト)  | 正 答 率 |
|--------------|-------|
| (何+何) + (何+) | 95%   |
| (何+何) - (何+) | 90%   |

本単元は、既習の(何+何)  $\pm$  (何+), (何+何)  $\pm$  (1位数) をして、模型のお金や数え棒を使って被加数を分解しないで加数の+配慮したい。

4. 指導計画 (5時間)

- 第1次 両方買うと、なん円でしよう。.....
- 第2次 どちらが、なん円高いでしよう。.....
- 第3次 式を書いて、文章題を解きましょう。.....

5. 本時の目標 (第1次第1時分)

- (2位数) + (2位数) で、繰り上がりのない計算のしかたを知
- 計算のしかたをいろいろ考え出し、よりよい方法をみんなで見つ

案

2校時

指導者 森 崎 愛 子

算ができるようにし、それを適用する問題が解けるようにする。

ようにする。

る。

| 問 題 (事前テスト)   | 正 答 率 |
|---------------|-------|
| (何十何) + (何十何) | 85%   |
| (何十何) - (何十何) | 25%   |

の計算が基礎になっているので、先行経験よりしかたをみつけさせたい。  
の位をまず処理し、次に一の位を処理する算法をしづかりと身につけるよう

..... 2時間

..... 2時間

..... 1時間

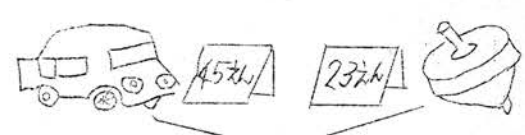
る。

け出す。



6. 学習課題 りょうほうかうと なんえんでしょう。

7. 展 開

| ね ら い            | 教 師 の 発 問  |
|------------------|--|
| ○学習課題の確認         | 1. 本時の学習課題を提示する。<br>(個人 グループ)  |
|                  |  <p style="text-align: center;">両方買うと何円でしょう。</p>   |
| ○いろいろな計算方法を考えだす。 | 2. 45 + 23の計算のしかたを考えて用紙に書いてみよう。<br>(個人)<br>お金を使って考えよう。<br>$\begin{array}{cccccccc} \textcircled{10} & \textcircled{10} & \textcircled{10} & \textcircled{10} & & \textcircled{10} & \textcircled{10} \\ \textcircled{1} & \textcircled{1} & \textcircled{1} & \textcircled{1} & \textcircled{1} & + & \textcircled{1} & \textcircled{1} & \textcircled{1} \end{array}$ 3. 自分が考えたしかたを隣の子に聞いてもらおう。<br>(グループ) |
| ○よりよい計算方法を知る。    | 4. グループで話し合った計算のしかたを、みんなに発表しよう。<br>(全体)<br>どの考え方がよいだろう。  |
| ○算法を唱えて計算する。     | 5. 44 + 35の計算のしかたを考えよう。<br>(個人) → (グループ) → (全体)<br>プリントの練習問題をしよう。  |
|                  | 6. かいものごっこをしながら、計算練習をしよう。  |

| 児 童 の 活 動   | 評 価  |
|---|--|
| <p>1. 黒板の絵を見て、問題をつかむ。</p> <p>○ 両方買う・・・たしざん</p> <p>○ 式・・・・・・・・45 + 28</p><br><p>2. お金を使つて計算のしかたを考える。</p> <p>○ <math>\begin{array}{ccccccc} \textcircled{10} &amp; \textcircled{10} &amp; \textcircled{10} &amp; \textcircled{10} &amp; &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} \\ &amp; &amp; &amp; &amp; &amp; + &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} &amp; \end{array}</math></p> <p>○ <math>\begin{array}{ccccccc} \textcircled{10} &amp; \textcircled{10} &amp; \textcircled{10} &amp; \textcircled{10} &amp; &amp; + &amp; \textcircled{10} &amp; \textcircled{10} &amp; + &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} \\ &amp; &amp; &amp; &amp; &amp; &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} &amp; \textcircled{1} \end{array}</math></p><br><p>3. グループで考え合う。</p><br><p>4. グループで出した意見を発表する。</p> <p>○ お金を使って計算する。</p> <p>(45に20をたして65)<br/>65に8をたして73)</p><br><p>5. 各自で考えてから、グループで検討しあう。</p> <p>○ <math>\begin{array}{l} 44に80をたして74 \\ (74に5をたして79) \end{array}</math></p><br><p>6. 次時の学習課題を知る。</p> | <p>○ 学習のめあてをつかんだか。</p><br><p>○ 熱心に取りくんだか。</p><br><p>○ 進んで自分の考えを述べたか。</p> <p>○ よりよい方法を見つけたか。</p><br><p>○ 学習意欲はあつたか。</p> |

1. 単元 すなぐるま

2. 目標

認知的目標

- 砂や小石など、いろいろな物の落とし方によつて、砂車の回り方
- 落ちる砂のかさの違いによつて、車の回り方が変わることを知
- 砂、おかくずなど、落ちる物の種類によつて車の回り方が変わ

態度的目標

- 問題を予想し、協力し合つて仲よく実験をする。
- 友だちの考えをよく聞き、自分の考えとくらべてみる。

3. 教材のとらえ方

児童は、前単元のシーソーで、かさとおもさ、大小、軽重の違いか回転を重さと力、物の落ちる位置と力としてとらえる。そこで、物のばせながら、砂車の回転の変化に気づかせたい。

4. 指導計画 (5時間)

- 第1次 砂車は、どんなしくみになっているでしょう。.....
- 第2次 つづけて回すには、どうしたらよいでしょう。.....
- 第3次 砂を多く落した時と、少ない時とでは、どちらが速く回るで
- 第4次 両方の羽根に砂をいちどに落とすと、どんな回り方をするでし
- 第5次 小石、おかくず、砂などでもよく回るでしょうか。.....

5. 本時の目標(第3次第1時分)

- 砂車の回り方は、羽根にあたる砂の量によつて変化することをたし
- 自分の考えを友だちに話し、予想を協力してたしかめる態度を養う。

2校時  
指導者

谷 郷 宣 代

にちがいができることを理解する。

る。

ることを理解する。

ら重い方へ傾き、重さと力の関係を経験している。本単元では、砂車の  
落ちる位置、落す物の重さ、あたる位置などはつきり条件をおさえて遊

..... 1時間

..... 1時間

しよう。..... 1時間

よう。..... 1時間

..... 1時間

かめる。

。

6. 学習課題 砂車は、砂を多く落した時と、少なく落した時では、ど

7. 展 開

| ね ら い  | 教 師 の 発 問   |
|--|---|
| <p>○学習課題について予想をする。</p> <p>○条件を統一して比較する。</p> <p>○結果を話し合う。</p> <p>○一定の時間に落ちる砂の量から砂車の回り方を考える。</p> | <p>1. 砂車は、砂を多く落した時と少なく落した時と、どちらが速く回るでしょう。（予想）</p> <p>2. 砂を落して回り方をみよう。</p> <div data-bbox="842 721 1452 1079" style="text-align: center;"> </div> <p>3. 実験の結果について話し合みましょう。（解決）</p> <p>4. 落ちる砂の量をくらべてみましょう。</p> <div data-bbox="925 1321 1388 1601" style="text-align: center;"> </div> |

ちらが速く回るでしょう。

| 児 童 の 活 動  | 評 価   |
|--|---|
| <p>1. 多く落した方が速く回る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◦ 高い所から</li><li>◦ 羽根の先の方へあてる。</li></ul> <p>2. 砂の量で回り方を見るのだから</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◦ 高さを同じ</li><li>◦ 羽根の位置も同じにする。</li><li>◦ 2人一組で実験をして回り方を見る。</li></ul> <p>3. やつぱり砂の多い方が速く回る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◦ 多い方が重いからだろう。</li></ul> <p>4. たくさん砂の出る方は、多くの砂があたつておも<br/>いんだなあ。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◦ たくさんあたつて、おもくて速く回るのだなあ。</li></ul> | <p>○日常生活から予想ができたか。</p> <p>○実験の条件を（高さ、位置）統一して実験しているか。</p> <p>○協力し合つてなかよく実験しているか。</p> <p>○自分の考えが述べられたか。</p> <p>○友だちの意見がよく聞いたか。</p> <p>○砂の量と重さによつて、力に差のあることがわかつたか。</p> <p>○速く回る理由がわかつたか。</p> |

1. 題材 きかん車やえもん

2. 目標

認知的目標

- 人物の気持ちの移り変わりを考えて読み取ることができるよ
- 時間的な順序や場面の移り変わりを考えながら読むことがで
- 表現に即して、内容を味わいながら読むことができるように

態度的目標

- やえもんの気持ちの移り変わりを深く読み調べ、感想を持つ
- 友だちの考えをよく聞き、自分の考えをしつかり話す。

3. 教材のとらえ方

本学級の児童は、絵入りの物語文を好んで読むが、深く心情をつの流だけしかくみとれない。この教材は、小さな子供たちを物語ここに出てくる乗り物は単に機関車の話としてでなく、人間の心情移り変わりを場面や、他の登場物とのからみ合いの中でとらえさせ、こまかな表現にも注意しながら、こうしたヒューマニズムにある情を養いたい。

4. 指導計画 (12時間)

- 第1次 全文を読んで感想を話し合い、学習計画をたてよう。
- 第2次 あらすじをつかむ。
- 第3次 「やえもん」の気持ちの移り変わりを場面ごとに調べ
- 第4次 「やえもん」について感じたことを話し合い、手紙を
- 第5次 ことばの学習、テストをする。

5. 本時の目標 (第3次第2時分)

- 電気きかん車に、「石たん食いのやえもんやあい。石たん食つて読みとる。
- 人の話を比べて聞き、自分の考えをしつかり話す。



2 校時

指導者 高瀬 八重子

うにする。)

きるようにする。

する。

うとする。

かむことは余りすぐれていない。感愴文も書きはじめたが、まだまだ表面上  
の世界にさそいこむ興味深い作品であり、リズムカルな感じさえする。

をそのままもつて登場している子供好きな汽車を主人公にし、その気持ちの  
きようとしたものである。

れた作品により、子供なりに読み深めさせ、生活をみつめ、広げる豊かな心

..... 2 時間

..... 2 時間

よう。 ..... 5 時間

書こう。 ..... 2 時間

..... 1 時間

おいしいか。」と笑われ、怒りが増してきたやえもんの気持ちを表現に即して

6. 学習課題 大きな駅で、小さなディーゼルカーや、電気きかん車、と  
 7. 展 開

| ね ら い   | 教 師 の 発 問   |
|---|---|
| <p>○ 本時の学習課題を知る。</p> <p>○ 「やえもん」の気持ちを詳しく読んで考える。</p> <p>○自分の考えをすすんで話す。</p> <p>○「やえもん」の言動から怒りの大きさを知る。</p> <p>○気持ちを表現して読む。</p> | <p>1. 今日の学習課題は何でしたか。<br/>(グループ)</p> <p>2. それぞれの場面での「やえもん」の気持ちを調べノートに書きましょう。<br/>(個人)</p> <p>3. 考えたことをもとにしてグループで話し合<br/>いましょう。(グループ)</p> <p>4. 「やえもん」の気持ちについて考えをま<br/>とめましょう。(全体)</p> <p>5. まとめ読みを指示</p> <p>6. 次時学習課題の予告</p> |

うきゆうに出会ったときの、やえもんの気持ちを考えよう。

| 児 童 の 活 動   | 評 価   |
|---|---|
| <p>1. 大きな獣で、いろんな列車に出会ったときのやえもんの気持ちを考える。</p> <p>2. 「やえもん」の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな列車に出会ったとき。</li> <li>・お昼ごはんのとき。</li> <li>・きかんこへ帰るとき。</li> </ul> <p>2. 「やえもん」の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな列車に出会ったとき。</li> <li>・お昼ごはんのとき。</li> <li>・きかんこへ帰るとき。</li> </ul> <p>3. 考えたことを話し合う。</p> <p>4. きたない自分がかない。</p> <p>怒<br/>り<br/>「ブツスン、おいしいわい。」<br/>まつ黒なけむり<br/>「しやくだ。」<br/>黒いけむりと赤い火のこ。<br/>きやく車のなだめも……。<br/>手をふる子どもたちに、声もかけなかつた。</p> <p>5. 「やえもん」の気持ちを考えながら読む。</p> <p>6. 次時学習課題を確認する。</p> | <p>○課題がしつかりつかめたか。</p> <p>○「やえもん」の気持ちが、詳しく読みとれたか。</p> <p>○「やえもん」の気持ちが詳しく読みとれたか。</p> <p>○自分の考えがしつかり話せたか。</p> <p>○友だちの考えと比べて聞き、「やえもん」の大変な怒りが理解できたか。</p> <p>○読みに気持ちがこめられていたか。</p> |

## 1. 単 元 分 数

## 2. 目 標

## 認知的目標

- 分数の意味、表わし方および大小関係などについて理解
- 同分母分数の加法減法について、簡単な計算ができるよ

## 態度的目標

- 具体物を使って数量関係を構成する態度をつくる。
- 友だちの発表をよく聞いて、自分の考えと比べ発表する

## 3. 教材のとりえ方

分数の学習は二学年の時に「はいとなんぶんの1」のところが  
れたもの」にとどまっている。

児童に分数という数を正しくとらえさせるためには、ただ概  
考えで生み出されてきたかということをおさえることが必要で  
今まで、対象をものさしで測定してきたのに、対象(はんば)  
だけに、その方法が発見されると、児童にとっては、かなり奇

## 4. 指導計画 (5時間)

第1次 はんばの表わし方を考えよう。

第2次 いろいろな分数を線を書いてみよう。

第3次 分数のたし算をしよう。

第4次 分数のひき算をしよう。

## 5. 本時の目標(第1次第1時分)

- 分数という数は、何のために生み出されてきたか、どのよう
- 分数の意味、表わし方を紙テープを使って理解する。

専 案

2 校時

指導者 寺 沢 寿美子

する。

うになる。

で学習しているが、ここでの児童の分数の概念は、「1つのものを何等分かさ

念づけをするだけでなく、それが何のために生み出されてきたか、どのような  
ある。そこで、「はんば」に目をつけさせることから入っていくことにした。  
でものさしの基準量を逆に測定するということは、なかなか気づかない。それ  
異に感じられ、また分数の意味を心から納得してくれるのではないかと思う。

..... 2 時間

..... 1 時間

..... 1 時間

..... 1 時間

な考え方で生み出されてきたかをとらえる。

6. 学習課題 はんばのあらわし方を考えよう。

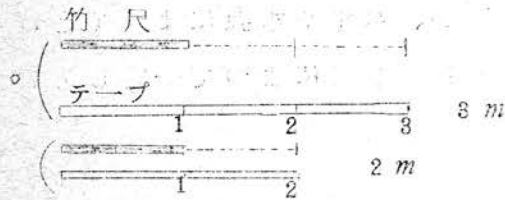
7. 展 開

| ね ら い  | 教 師 の 発 問  |
|--|--|
| <p>○はんばの表わし方をくふうする。</p> <p>○互除法2回によるはんばの表わし方をくふうする。</p> <p>○本時学習のまとめをする。</p> | <p>1. この紙テープは何 <math>m</math> あるでしょう。(全 体)</p> <p>2. ではこの紙テープは何 <math>m</math> あるでしょう。<br/>はんばの表わし方を考えよう。<br/>(個 人)<br/>↓<br/>(グループ)<br/>↓<br/>(全 体)</p> <p>3. この紙テープは何 <math>m</math> あるでしょう。<br/>(個 人)<br/>↓<br/>(グループ)<br/>↓<br/>(全 体)</p> <p>4. この時間の学習をまとめましょう。</p> |

児 童 の 活 動

評 価

1. 竹尺で測る。



2. (テープ) 2 m と □

1 2

はんばに気づく。

・各班、紙テープを測り考える。

はんばは2つ分で1 mだから

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{はんばは} \frac{1}{2} m \\ \text{全体は} 2 \frac{1}{2} m \end{array} \right.$$



各班、紙テープを測り考える。

・はんばアで1 mを測るたりない分をイとする

・アはイの3つ分

・1 mはイの4つ分

・だから

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{はんばは} \frac{3}{4} m \\ \text{全体は} 2 \frac{3}{4} m \end{array} \right.$$

4. 板書を見ながら本時の課題のまとめをする。

次時の学習課題を知る。

○はんばの処理をくふうできたか。

○友だちの発表を聞き、自分の考えと比べ発表できたか。

○互除法によるはんばの表わし方が理解できたか。



1. 単 元 ほうさんのとけ方

2. 目 標

認知的目標

- ほうさんは水にとけにくい、水量や水温によつてとける量が変
- ほうさんのとける量は、水温や水量によつて一定していて、その解する。

態度的目標

- ほうさんを水にとかして、加熱したりうすめたりする操作が安全
- 話し合いによつて、ひとりひとりの考えを深めようとする。

3. 教材のとらえ方

児童は、ほうさんが水や湯にとけるといふ現象については、はつきさんの一部が結晶として出てくる現象は、はじめてである。3年生でいこと。和溶液の概念等の化学の初歩学習を次の学習の基礎となるよう、実験操

4. 指導計画（8時間）

- 第1次 全体計画をたてる。.....
- 第2次 ほうさんは水にどのようにとけるだろう。.....
- 第3次 水にとけないで残つたほうさん水はどうしたらとけるだろう
- 第4次 ほうさんのとける量は水の温度によつて、どう変わるだろう
- 第5次 濃いほうさん水を冷やすと、どうなるだろう。.....
- 第6次 濃いほうさん水をうすめるには、どうすればよいだろう。

5. 本時の目標（第3次第3時分）

- 水にとけないで残つたほうさん水をあたためると、とけることを理
- 話し合いによつて、ひとりひとりの考えを深めようとする。

2校時

指導者 平木君枝

化することを、実験によつて理解する。

水溶液の温度が下がるとほうさんの一部が結晶として出てくることを理

かつ正確にできるようにする。

りとした意識をもっていない。まして、水溶液の温度が下がると、ほう  
は、溶液は透明であること、とけて見えなくなつても消滅したのではな  
作や概念を正しく身につけさせたい。

..... 1時間  
..... 1時間  
う。..... 3時間  
う。..... 1時間  
..... 1時間  
..... 1時間

解する。

6. 学習課題 水にとけないで残ったほうさん水はどうしたらとけるか

7. 展 開

| ね ら い                  | 教 師 の 発 問                                     |
|------------------------|---|
| ○先行経験から、自分の考えをしつかりもつ。  | 1. とけ残ったほうさん水をとかすには、どうしたらよいでしょう。 (予想)         |
| ○加熱する装置を考える。           | 2. 実験装置を考えましょう。                               |
| ○記録の仕方を考える。            | ○観察したことを、温度の変化にしたがつてわかるように記録するには、どうしたらよいでしょう。 |
| ○水温ととけるほうさんの量の変化を観察する。 | 3. 実験をして、結果を話し合ひましょう。<br>(解決)                 |
| ○温度を高くする程多くとけることを理解する。 | 4. 今日学習でわかったことをまとめましょう。<br>(まとめ)              |

1. 単元 食塩水

2. 目標

認知的目標

- 食塩が水に溶ける量には限度がある。
- 水と食塩との量の割合から食塩水の濃さがきまる。
- 同じ体積の食塩水は濃さによつて重さに違いがある。
- 水に溶けた食塩を再び結晶として取り出すことができる。

態度的目標

- 食塩水について考え方を深める態度を育てる。
- 自分の考えと比較しながら、友だちの意見をよく聞き自己

3. 教材のとらえ方

食塩が水にとけて目に見えなくなつても、水の中に目に見えない見えない粒子として存在しているというより味がついたといったここでは、身近な食塩水を利用して同体積の液の濃さを数量的晶としてでてくるという見方、考え方を伸ばしていくものである。そこで、目に見えない溶解した物質をどのように確かめていっさせていきたい。

4. 指導計画（7時間）

- 第1次 食塩を水にできるだけ溶かしてみよう。
- 第2次 食塩水のこさと重さの関係はどうだろう。
- 第3次 食塩水から食塩を取り出してみよう。
- 第4次 食塩水の濃さによつて出てくる食塩の量は違うだろうか。
- 第5次 食塩水から水だけを取り出してみよう。

5. 本時の目標（第5次）

- 同じ体積の食塩水は濃さによつて重さに違いがあることを数量
- 自分の考えを友だちに知らせ、お互いに協力して考察する。

2校時

指導者 岡本和歌子

の考えを深めようとする。

い小さな粒となつてはいつているととらえているものは少ない。食塩が目  
考えをもっている。

に測定すること、食塩がとける量には限りがあることや溶けた食塩が再び結

か先行経験などをもとに味覚や液の重さの測定、食塩水の蒸留などから考え

..... 2時間

..... 1時間

..... 2時間

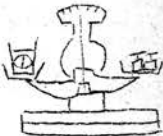
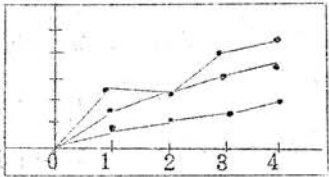
ろう。..... 1時間

..... 1時間

的にとらえる。

6. 学習課題 同じかさの水と食塩水ではどちらが重いだろう。

7. 展開

| ね ら い   | 教 師 の 発 問   |
|---|---|
| <p>○ 課題の予想をする。</p> <p>○ 食塩水を測定する装置や用具を考える。</p> <p>○ 同じ体積の水・食塩水の重さを正確に測定する。</p> <p>○ 数量化によつて食塩水の濃さと重さとの関係がわかる。</p> | <p>1. 同じかさの水と食塩水ではどちらが重いでしょう。 (予想)</p> <p>2. 実験の方法について話し合ひましょう。</p> <p>3. 実験をして、同じかさの水・食塩水の重さをはかりましょう。<br/>&lt;上ずみ液&gt;</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="display: flex; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">②</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">③</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">④</div> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>水    5g   10g   15g   20g</p>  </div> </div> <p>4. 実験結果について話し合ひましょう。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="margin-left: 20px;">(解決)</div> </div> <p>5. どんなことがわかりましたか。(まとめ)</p> |

| 児 童 の 活 動   | 評 価   |
|---|---|
| <p>1. どちらが重いか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ重さ</li> <li>・ 食塩水の方が重い。</li> <li>・ 食塩水の方が軽い。</li> </ul> <p>なぜか考える。</p> <p>2. 方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 軽いプリンカップを使うとよい。</li> <li>・ 上皿てんびんを使うとよくわかる。</li> </ul> <p>3. 実験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はかる水・食塩水は同じかさにして容器の外側の水はよくふきとる。</li> <li>・ 測定した数量はグラフにするとよい。</li> </ul> <p>TPにまとめる。</p> <p>4. O・H・Pを使つて発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループのOHPを重ねてみよう。</li> </ul> <p>5. 同じかさの食塩水では、濃いものほど重いんだな。</p> | <p>○ 先行経験から予想できたか。</p> <p>○ 注意深く正確な測定をしているか。</p> <p>○ グラフ化によつて食塩水の濃さと重さの関係をつかんだか。</p> |



1. 単元 高い石の柱

2. 目標

認知的目標

- 登場人物や作者の考え方を読みとり、人間としての生き方について
- 表現に即して、場面やその情景を思い描くようにする。

態度的目標

- ① 自分の考えと比べながら、友だちの感想や意見を聞いて思考を広め
- 友だちの考えを大切に、自分も進んで話そうとする。

3. 教材のとらえ方

4年生ともなれば種々の本に触れ、長文でも内容がよければ、進ん  
 しかしその中には、断片的な事柄の感想が多くて、全体的な筋の流れ  
 高い石の柱は、登場人物が少なく、全員の行いが非常にはつきりして  
 考えることが容易である。

そこで登場人物のひとりひとりの行動と考えに焦点を当てて話し合  
 らに深めさせ、作者の意図することを読み取らせ、人間としての生き

4. 指導計画 (10時間)

- 第1次 全体計画 .....
- 第2次 王様、冢来、石屋はどんな人だろう。 .....
- 第3次 作者の言いたいことは、何だろう。 .....
- 第4次 感想文を書こう。 .....
- 第5次 他の作品を読もう。 .....

5. 本時の目標 (第3次第2時分)

- 作者の一番言いたいことをまとめる。
- 自分の考えをしつかり持ち、人の意見と比べながら聞こう。

案

2校時

指導者 牛 建 典 子

考えるようにする。

ようとする。

で読書する児童も増えて、感想文に自分の考えがはつきり書けつつある。  
と人物の言動を結びつけて感想にもつことはむずかしい。  
いるので人物と事柄と関係して考えやすく、筋道の全体の流れも合わせて

い、友だちの受け取り方の違いについて考えさせ、自分の感想、意見をさ  
方について考えさせたい。

..... 1 時間

..... 4 時間

..... 2 時間

..... 1 時間

..... 2 時間

6. 学習課題 作者は7の話の中でどんなことを言いたいのだろう。

7. 展 開

| ね ら い   | 教 師 の 発 問  |
|---|--|
| <p>○前時の作者の考えを想起する。</p> <p>○文中より作者の言いたいことを読みとる。</p> <p>○作者の考えが変わっていることに気付く。</p> <p>○本にとらわれずに子どもの考えを出す。</p> <p>○次時の予告</p> | <p>1. 作者は、6の話の中では悪いことをする者は、王様のように悪いむくいを受けるものだ。ということですね。</p> <p>2. 作者は、7の話の中でどんなことを言いたいのだろう。</p> <p style="text-align: right;">( 個 人 )<br/>↓<br/>( グ ル ー プ )<br/>↓<br/>( 全 体 )</p> <p>3. 6と7の話の中で作者の言いたかつたことをまとめましょう。</p> <p style="text-align: center;">( グ ル ー プ ) —————&gt; ( 全 体 )</p> <p>4. 自分が作者だとすれば話をどのように終らせますか。</p> |

| 児 童 の 活 動  | 評 価   |
|--|---|
| <p>1. ノートを見て確認する。</p> <p>2. 目黙して、作者の考えの表れているところから調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>むちやなことをする者は、正さなければいけない。<br/>         だが相手が正しい考えをもつようにしようずになければいけない。</p> </div> <p>○「柱のいただきにいた石屋はうまく助かってくれればよいのじゃがなあ。」</p> <p>3. 6と7で作者の考えを比べて、どちらのことを言いたいのか考える。</p> <p>4. いろいろな方法について考える。</p> <p>次時の学習課題を知る。</p> | <p>○ ひとりひとりの考えをしつかりもつたか。</p> <p>○ 人の意見と比べながら聞いているか。</p> <p>○ 作者の言いたいことがわかったか。</p> |

## 1. 単元 母ぐま子ぐま

## 2. 目標

## 認知的目標

- 文章の主題や内容を的確に読みとることができるようにする。
- 人物の気持ちや場面の情景を味わって読むことができるように

## 態度的目標

- 動物の愛情に満ちた物語を読み想像力を高め情操を豊かにする。
- 自分の意見と比べながら人の意見をきき共に高まろうとする。

## 3. 教材のとりえ方

本教材は、美しい情景を背景に、子ぐまを守るために死をも恐れず作品である。

子どもたちは読書の範囲が広くなり、文学作品に対して興味や関心のもつ真の味わいにふれることは、まだ未熟である。ここに登場するわるおそれもある。

そこで、児童の内面的な心のはたらきを大切にしながら、表現の細とさないようにさせたい。また、他の作品を読むことによつて物語の

## 4. 指導計画 (10時間)

- 第1次 全文を通して読み読後の感想を話し合う。学習計画をたてる。
- 第2次 物語の主題をつかむために人物の行動や気持ち情景などを調べる。
- 第3次 感想文をかいて読みを深める。
- 第4次 他の作品について読み味わう。

## 5. 本時の目標 (第2次第4時分)

- (3)の場面を中心に気が遠くなりそうな母ぐまが、想像もできな
- 友だちの意見を尊重しながら文に即した自分の考えをのべあつてと

2校時

指導者 八瀬 典喜

する。

に果敢な行動をとった母ぐまの強烈な母性愛を、迫力ある文章で描いた  
をもつようになつてきている。しかし豊かなイメージを描きながら作品  
ぐまの生態は、児童の心を大いにわかせると思うが、表面的な読みに終  
部に注意して読ませ、母ぐまの行動のうら側にある微妙な心情を読みお  
読み味わいを深めていきたい。

る。..... 2時間  
読みとる。..... 5時間  
..... 1時間  
..... 2時間

いような力を出した愛情を読みとらせる。  
もに高めあう。

6. 学習課題 母ぐまは気が遠くなりそうだったのに、なぜ「死んではい  
7. 展 開

| ね ら い   | 教 師 の 発 問  |
|---|--|
| <p>○ 学習課題をつかむ。</p> <p>○ 母ぐまの強い愛情を文に即して考える。</p> <p>○ かり犬との死闘の情景を想像し愛の強さを読みとる。</p> <p>○ 母ぐまの子ぐまに対する愛情の深さを味わう。</p> <p>○ 次時予告</p> | <p>1. わかあさんぐまはなぜ「死んではいけない・・・」とさげんだのか。</p> <p>○二ひきの子ぐまのことを考えていることが文のどこでわかるか。</p> <div style="text-align: center;"> <p>(個人)</p> <p>↓</p> <p>(グループ)</p> <p>↓</p> <p>(全体)</p> </div> <p>2. 学習のまとめをしよう。<br/>(グループ → 個人)</p> <p>3. 「なぜ天もどろけともうれつな声でうなつたか。」</p> |



いけない。死んではいけない」とさげんだのでしよう。

| 児 童 の 活 動  | 評 価   |
|--|---|
| <p>1. 個人の考えをまとめる。<br/>グループで話し合う。</p> <pre>         graph TD             A[気が進まない方向へにげる] --&gt; B[へとへと<br/>きけんなもの]             B --&gt; C[→もうどうしようもない。]             C --&gt; D[→ひとみは血のように赤く<br/>つかれ・いたみ]             D --&gt; E[→いたみからだじゆう]             E --&gt; F[→「死んではいけない。・・・」<br/>母ぐまの本能]             F --&gt; G[→想像のできないような元気を出して]             G --&gt; H[自分はどうなつても・・・<br/>子ぐまを助けたい。<br/>母ぐまの愛情。]             H --&gt; A             </pre> <p>2. 学習したことをまとめる。<br/>自己評価をする。</p> <p>3. 次時の学習課題を確認する。</p> | <p>○ 課題への関心があるか。</p> <p>○ 母ぐまの気持ちを文に即して真剣に考えたか。</p> <p>○ 友だちの考えと比べながら聞き思考を深めたか。</p> <p>○ 進んで自分の考えをのべ深めたか。</p> |

1. 単元 立体の表面積と体積

2. 目標

認知的目標

- 角柱、円柱の側面積、表面積の求め方を理解する。
- 角柱、円柱の体積の求め方を、理解する。

態度的目標

- 立体の表面積と体積の、公式をつくり出すまでの過程を、
- 自発的に、個々の考えを拡げ、友だちと協力しあつて、さ

3. 教材のとらえ方

事前テスト結果の正答率(%)

|        |      |      |      |
|--------|------|------|------|
| 四角形の面積 | 97.2 | 側面の名 | 100  |
| 三角形の面積 | 89.6 | 底面の名 | 100  |
| 円の面積   | 80.7 | 表面の名 | 90.0 |

立体に対して、量的にとらえにくいため、求積に混乱のみられ  
4年で立方体と直方体の体積を、5年で円形の面積の求積方法  
それを基盤にして、本単元では、立体の展開図や、単位面積  
よう、特に、重点をおいて指導したい。

4. 指導計画 (9時間)

- 第1次 全体計画をたてる。
- 第2次 角柱や円柱の側面積や表面積の求め方を考えよう
- 第3次 角柱や円柱の体積の求め方を考えよう。
- 第4次 立体の表面積や体積を求める練習をしよう。

5. 本時の目標 (第2次第1時分)

- 角柱、円柱の展開図より、側面積の求め方を知り、公式をみつ
- 自分の考えを、進んで述べ、友だちの意見を求めて、互いに

導案

2校時

指導者

三浦昭子

論理的に追求する。  
さらに深めようとする。

| 立体名 | 側面積  | 表面積  | 体積   |
|-----|------|------|------|
| 角柱  | 40.9 | 36.5 | 63.6 |
| 円柱  | 20.4 | 28.6 | 22.7 |

るものがある。

から、公式をみつけ出す学習をして来た。

をもとにして、最も合理的な求積方法を生み出し、それが、公式化されていく

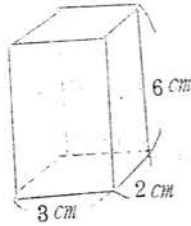

- ..... 1時間
- ..... 2時間
- ..... 3時間
- ..... 3時間

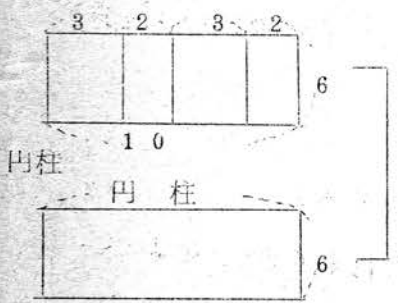
ける。

みかき合おうとする。

6. 学習課題 角柱や 円柱の側面積を求める 公式をみつけよう。

7. 展 開

| ね ら い   | 教 師 の 発 問   |
|---|---|
| <p>○ 本時の課題確認</p> <p>○ 展開図から求めると求めやすいことの理解</p> <p>○ 側面積の公式をみつける。</p> <p>○ 公式を利用して、側面積を求めることができる。</p> | <p>1. 学習課題を確認しよう。</p> <p>2. 角柱や円柱の側面積の求め方をいろいろ考えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>3cm, 2cm, 6cm</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>2cm, 6cm</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">(個人)</p> <p style="text-align: right;">↓</p> <p style="text-align: right;">(グループ)</p> <p style="text-align: right;">↓</p> <p>○ 側面積の求め方を、ことばの式にあらわそう。(全体)</p> <p>3. 公式を使って、側面積を求めよう。(個人)</p> <p style="text-align: right;">(グループ)</p> <p>4. 表面積の求め方を考えよ。</p> |

| 児童の活動  | 評価   |
|--|--|
| <p>1. 課題の確認と方法をグループで話し合う。</p> <p>2. 角柱や円柱の側面積をいろいろ考えて求める。(予想される思考)</p> <p>角柱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1つずつの側面の面積から</li> <li>• 2つの側面の横の長さを求めてから面積を出す。</li> <li>• 展開図を書いて求める。</li> </ul>  <p>円柱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 側面の横は底面のまわり</li> <li>側面の縦は 高さ</li> <li>○ 側面積 = 底面の周 × 高さ</li> <li>○ 教科書で、たしかめる。</li> </ul> <p>3. 公式にあてはめて、立体の側面積を求める。</p> <p>4. 次時の課題を知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題への関心がある。</li> <li>○ 自分で話し合いを考え、熱心に取り組んだか。</li> <li>○ 積極的に話し合いに参加出来たか。</li> <li>○ 側面積の公式がみつけれられたか。</li> <li>○ 公式を利用することができたか。</li> <li>○ 自己評価が出来たか。</li> </ul> |

4

1. 単元 ばねばかり

2. 目標

認知的目標

- 力の大きさは、物の重さに置き換えられることを理解する。
- おもりをつるして静止した、つるまきはねは、もとにもど
- つるまきはねの、のびの長さは、つるしたおもりの重さや

態度的目標

- 測定したデータを解釈して、法則をみつけ出す態度を養う。

- いろいろな意見や考え方を比較し、自分の考えをまとめる

3. 教材のとらえ方

- これまで児童は、やじろべえ、てんびん、てこなどの、つ
- 重要な、要素であることを経験している。本単元では、力
- つて学級全体との相関関係から、客観性をもたせるように

4. 指導計画 (8時間)

- 第1次 全体計画をたてる。
- 第2次 ものの重さとはねの伸びを調べよう。
- 第3次 ばねの元にもどろうとする力をしらべよう。
- 第4次 2つの力のつりあいをしらべよう。

5. 本時の目標 (第2次第1時)

- つるまきはねに、下げたおもりと、つるまきはねの伸び方をし
- いろいろな意見や考え方を比較し、自分の考えをまとめる。

2校時 平野 博  
指導者

ろうとする力と、おもりの重さがつり合っていること。

、手で引きのばした力の大きさを表わしていること。

り合いの現象を学び、手ごたえは五感の一部として、力の大きさをとらえる  
を重さにおきかえ数量化することによつて法則化へ進ませ、データ解釈によ  
したい。

..... 1時間

..... 3時間

..... 2時間

..... 2時間

らべる。


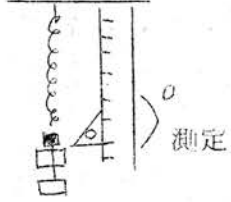
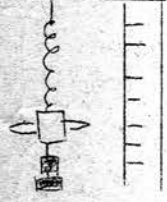
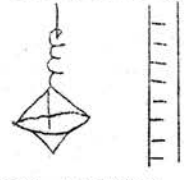
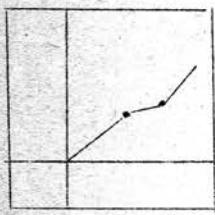
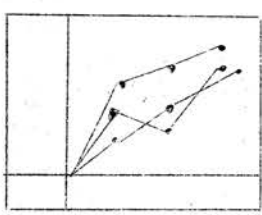


6. 学習課題 つるまきばねにおもりを加えると、おもりとばねの伸び

7. 展 開

| ね ら い                                   | 教 師 の 発 問  |
|---|--|
| <p>○ ばねの伸びを、先行経験から予想し、自分の意見をしっかりとつ。</p> | <p>1. つるまきばねにおもりを加えていくと、おもりとばねの伸びはどうなっていくだろうか。<br/>(予想)</p> <p>○ばねの伸びはどうしてはかるとよいだろう。</p> |
| <p>○ ばねの伸びの測定を正確にする独自の工夫をする。</p>        | <p>2. つるまきばねにおもりを1つずつ加えるとどうなるだろうか。</p>   |
| <p>○ 友達の意見や考え方を聞き、自分の考えと比較する。</p>       | <p>3. 結果をはつきりと数量でまとめる方法は<br/>(解決)</p> <p>4. わかったことをまとめる。<br/>(まとめ)</p>                   |

はどうかになっていくだろう。

| 児 童 の 活 動  | 評 価   |
|--|---|
| <p>1. 予想する。</p> <p>① さいしよはのびない。</p> <p>② 重さが重いほどよく伸びる。</p> <p>③ ある重さがくるとこわれる。</p>   <p>2.</p>  <p>円盤<br/>実験装置を考える。</p>  <p>三角すい容器。</p> <p>3. OHPにまとめる。</p>  <p>グラフ化</p>  <p>重ねる</p> <p>4. データを読みとる。</p> <p>正比例するはんいを考える。</p> | <p>○ 先行経験からはねの伸びの予想ができたか。</p> <p>○ 実験結果が正確に、できるよう配慮しているか。</p> <p>○ 友達の見解を聞いて自分の意見と比較しまとめをしようとしているか。</p> |

1. 単 元 かさじぞう

2. 目 標

認知的目標

- 登場人物の気持ちや、情景を想像しながら、話の筋を正しく読み
- 正確な発音で、正しく読み、新しい漢字や、ことばを理解する。

態度的目標

- 自分の気持ちを正しく発表したり、友だちの発表を聞いたりして考
- 新しい漢字や、ことばを理解し、日常化する。

3. 教材のとらえ方

児童の実態

| 氏 名  | 学 年 | 性 別 | I Q  | 読 み と 内 容      |
|------|-----|-----|------|----------------|
| M. Y | 4   | 男   | 測定不能 | ひろい読み、内容の読みとりは |
| S. H | 4   | 女   | 47   | 語としては読めるが、文は   |
| Y. K | 4   | 女   | 44   | すらすら読め、簡単な内    |
| S. Y | 5   | 男   | 測定不能 | 語として読めだしたが、内   |
| M. A | 5   | 男   | 45   | ひろい読みだが、部分的な   |
| O. Y | 5   | 男   | 62   | 棒読み、文にそつて、順    |
| S. Y | 6   | 女   | 40   | 表現力豊かな読み振りだが   |

かさじ絵を中心に文は短かくまとめられ、本学級の児童に取組みやすい数  
、豊かな感情を育てたい。

4. 指導計画 (10時間)

- 第1次 漢字やことばを学習し、正しく読め、感想を書く。.....
- 第2次 話のすじを追つて、内容を読みとる。.....
- 第3次 劇化を通して、童話の世界の楽しさを味わう。.....
- 第4次 新しい漢字やことばの使い方を練習する。.....

とる。

えを広げる。

の読みとり

、むずかしい。

、即して筋をとらえにくい。

容は、読みとることができる。

内容の読みとりは、むずかしい。

内容は、とらえられる。

、よく内容をとらえることができる。

、要点の把握はむずかしい。

材である。じぞうさまに対するおじいさんのやさしい心情を読みとらせ

..... 3 時間

..... 4 時間

..... 2 時間

..... 1 時間

5. 本時の目標 (第2次第3時分)

- 石のじぞうさまにまで気づかいをするおじいさんのやさしい心情
- 友だちの発表を注意して聞き、自分の考えをはつきり言う。

6. 学習課題 「そうだ。よいことがある……」とっておじいさん

7. 展 開

| ね ら い  | 教 師 の 発 問  |
|--|--|
| <p>○ 学習課題をつかむ。</p> <p>○ 文表現の中から、おじいさんの行動や気持ちをみつける。</p> <p>○ 話し合いを通して、より確かなものにする。</p> <p>○ 劇化してまとめる。</p> <p>○ 次時へ発展</p> | <p>1. 今日は、どんなことを調べるのですか。(全 体)</p> <p>2. それは、本のどこでわかるか読んで調べましょう。<br/>(P98~100) (個 人)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">(グループ)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">(全 体)</p> <p>3. 勉強したことを指人形で劇を やつてみましょう。<br/>(全 体)</p> <p>4. 次時の課題を予告する。</p> |

を、文中より読みとる。

、どうしましたか。なぜ、そんなことをしたのでしょうか。

| 児童の活動   | 評価                            |                               |  |
|---|-------------------------------|-------------------------------|--|
| <p>1. 課題を読み、調べることを話し合う。</p> <table border="1" data-bbox="271 716 909 873"><tr><td data-bbox="271 716 550 873">2. 読んでわかったことをノードに書く。</td><td data-bbox="550 716 909 873">○語としての読みの練習<br/>(M・Y)<br/>(M・A)</td></tr></table> <p>○おじいさんは、おじぞうさまに</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ かさをかぶせてあげた</li><li>・ ひとつたりない。</li><li>・ 「わしのがさも・・・」</li></ul> <p>○おじぞうさま・ふぶきの中</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ さむそうに立っている</li><li>・ かさもない</li><li>・ おきのどく</li></ul> <p>○おじいさん —— 雪だらけで家に帰る</p> <p>3. 行動を追って、おじいさんの心情にふれ、感想を話し合う。</p> <p>4. 次時学習課題を知る。</p> | 2. 読んでわかったことをノードに書く。          | ○語としての読みの練習<br>(M・Y)<br>(M・A) | <p>○課題がつかめたか。</p> <p>○文中からどの程度みつかることができたか。</p> <p>○聞き方、発言のし方は、よいか。</p> <p>○おじいさんの心情がとらえられているか。</p> <p>○感想を持つことができたか。</p> |
| 2. 読んでわかったことをノードに書く。  | ○語としての読みの練習<br>(M・Y)<br>(M・A) |                               |  |